

# 千葉教育

## 梅

平成28年度  
No.641

千葉の子どもたちの未来のために

12・1月

### 特集 オリンピック・パラリンピック教育～2020年に向けて～

#### ○シリーズ 現代の教育事情

早稲田大学スポーツ科学学術院教授 間野 義之  
文部科学省大臣官房政策課評価室/スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課  
県教育庁教育振興部体育課  
松戸市教育委員会

#### ○提言

能楽師 シテ方観世流 九世 橋岡久太郎



# 学校自慢

## グローバル人材育成に挑む

～ English day ～

流山市立南流山中学校長 こばやし のぶや  
小林 信弥



### 1 English day 始まる！

生徒が口々に「Good morning！」と元気にあいさつをし、登校してくる。4月、第1回の English day、朝の光景である。生徒たちの意識は高く、廊下や教室でも「Good morning!」が聞こえてきた。教師も負けてはいない。出欠席確認を英語で行ったり、朝の会も英語を交えて行ったりする教師が何人もいた。そういう学級では、生徒も英語で朝の会の連絡をしようとする。その日、朝の職員打合せの司会も英語だった。前日に英語科の教師に聞いて司会の言葉を予習していた。発言者の何人かは英語で連絡をしていた。昼の放送も、放送委員の生徒たちが自主的に英語で放送を始めた。全てが初めての出来事で、新鮮な驚きと高揚感を感じた。生徒が恥ずかしくて英語を使わないのではと心配したが、杞憂に終わった。

### 2 なぜ English day か？

本校は、平成26年度に文部科学省から英語教育強化地域拠点事業の拠点校に指定され今年度で3年目を迎える。英語で自由にコミュニケーションができるグローバル人材につなげるための研究を行っている。その取組の一つが本年度から始めた English day である。English day の日は、朝登校してから給食終了までの日常会話をできるだけ英語で行う。毎月1回、第3木曜日に行っている。英

語の授業だけでなく、授業外、教室外でも英語を使う練習をするのが目的である。そして、英語を話すことに興味を持ち、話せるようになりたいという意識の醸成になればと考えている。

### 3 English day の今は？

7月の第4回では、英語科がひと工夫した。クイズ (Trivia in English!) を3問書いたプリントを生徒全員に配付。答えは教師の誰かが知っているという設定で行ったところ、多くの生徒が休み時間に教師に英語で質問するという現象が生まれ、アンケート調査の数値がぐーんと跳ね上がった。しかしながら、一歩踏み出す勇気がなくて英語で話すことをためらう生徒も少なくない。更に工夫を重ね、英語でのコミュニケーションにトライする生徒を増やしていきたい。

English day はどんな成果を生み出せるか、今後が楽しみである。



Do you know this answer?

## ◆学校自慢

グローバル人材育成に挑む～ English day ～

流山市立南流山中学校長 小林 信弥

## ◆提言

伝統からの教え

能楽師 シテ方観世流 九世 橋岡久太郎 …2

## シリーズ！ 現代の教育事情 オリンピック・パラリンピック教育～2020年に向けて～

■ゴールデン・スポーツイヤーズとスクール・レガシー 早稲田大学スポーツ科学学術院教授 間野 義之 …4

■2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文部科学省の取組について 文部科学省大臣官房政策課評価室/スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 …6

■オリンピック教育のこれからの展望 県教育庁教育振興部体育課 …8

■オリンピック・パラリンピック教育の推進 松戸市教育委員会 10

## 私の教師道

■学校を創る 継続とカイゼンそして成長～地域コミュニティと共に～ 松戸市立小金北中学校長 鮎川 渉 …12

■学校を支える 「チーム生浜」の取組 県立生浜高等学校教頭 青柳 表錦 …14

■学校を動かす 教務主任の役割とは～理解し、繋ぎ、引き出す～ 山武郡横芝光町立日吉小学校教諭 守屋 敦 …16

■研修を生かす 企業派遣研修を学校現場で生かす～ウェザーニューズ社での研修から学ぶ～ 千葉市立千葉高等学校教頭 市川 透 …17

■授業を創る 基本にもどって 千葉市立小中台中学校教諭 澤田 健介 …18

■子どもを知る すべては子どもたちのために～私の目指す教師～ 袖ヶ浦市立根形中学校教諭 小野寺汐莉 …20

■子どもを知る 生徒の成長と自分の成長 県立八街高等学校教諭 高梨 智也 …20

## 活・研究 長期研究生からの報告

■小学校編 読書力を高め言語文化に参加する児童の育成  
～読解と読書の融合をめざすミステリーのシリーズ読書～ 船橋市立西海神小学校教諭 三宮真由美 …21■中学校編 思考力・表現力を育む学習指導の在り方  
～「一次関数」における既習事項と関連付けて学習していく活動を通して～ 茂原市立南中学校教諭 中舘 武優 …24■特別支援学校編 高等学校段階におけるインクルーシブ教育システム構築に向けて  
～学校間における交流及び共同学習を通して～ 県立印旛特別支援学校教諭 赤間 樹 …27

## 情報アラカルト

■校外学習における博物館の活用 ～『房総のむら』における学習支援事業～ 県立房総のむら学芸員 吉田 歩未 …30

■企画展「メタルアートの巨人 津田 信夫」 県立美術館主任上席研究員 中松 れい …31

■教員のための博物館の日2016 ～楽しみながら、活かそう！学びの宝庫「中央博物館」～ 県立中央博物館教育普及課主任上席研究員 安川 裕樹 …32

■平成28年度センター研究発表会 県総合教育センター・県子どもと親のサポートセンター …33

■特別支援学級担当者の専門性向上パッケージの開発～質問紙調査の調査結果から～ 県総合教育センター特別支援教育部 …34

■学習状況調査の結果分析を活用し、指導改善に役立てましょう！ 県総合教育センター学力調査部 …35

## 学校 NOW！

■学校歳時記 次期学習指導要領は「学びの地図」 教育創造研究センター所長 高階 玲治 …36

■笑顔をとれどもせ 目標設定と手立ての改善・話し合い活動を通して、道徳性の向上を図るため生徒指導主事として取り組んだこと 浦安市立入船中学校教諭 埜 洋 …38

■千葉歴史の散歩道 日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」 県教育庁教育振興部文化財課・指定文化財班長 島立 桂

## 道標

## オリンピック・パラリンピック教育～2020年に向けて～

オリンピック・パラリンピックは開催都市と国に大きな社会変革をもたらし、レガシーとして有形・無形の良い影響を継承している。その中には、平和主義、社会的マナー、積極的社会貢献など、人間としての生き方の根本に関するものが存在している。1964年東京大会では、大会の成功・日本人の活躍により国民が自信と希望を取り戻し、「パラリンピック」という言葉を初めて使用したことなどから、他者を思いやる心も回復した。その考え方や理念はレガシーとして現在まで引き継がれている。これはIOCの示すオリンピックの3つの価値（卓越、友情、敬意／尊重）やIPCの示すパラリンピックの4つの価値（勇気、決意、平等、鼓舞）に通ずるものであり、子どもたちに伝えていくべきものである。

文部科学省ではオリンピック・パラリンピックレガ

シー創出に向け、スポーツ・カルチャー・イノベーション・ヒューマン・ユニバーサルと5つの分野から目標を立てそれぞれ具体的取組を行っている。いずれの目標も日本が誇る「強み・深み」を再発見し、ショーケースとして世界にアピール・発信すると共に、次の世代への贈り物として継承することを大目標としている。

また本県においても「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉県戦略」の中でオリンピック・パラリンピック教育の重要性を取り上げている。

「スポーツは世界と未来を変える力がある」といわれる。2020年東京大会に向け、オリンピック・パラリンピック教育の目標と内容を検討し、子どもたちにどのような力を育んでいくか考えなくてはならない。本号がその一助となれば幸いである。

# 提

# 言

## 伝統からの教え

能楽師 シテ方観世流 九世 はしおかきゅうたろう 橋岡久太郎



### はじめに

能楽は、今からおおよそ650年前に生まれた世界最古の古典演劇。ただ古いだけでなく当時の台本・演出をそのまま伝え、能面・装束までもが今なお実際の使用に耐えうる特殊な演劇である。現在世界中で親しまれているシェイクスピアの最古の上演が400年ほど前ということを見ると、能楽がいかに古い時代に完成されていたかがわかる。その価値が認められて、我が国の数ある伝統芸能や伝統技術の中で世界無形文化遺産第一号に認定された。

私は、能楽の元祖的流派であるシテ方（※能楽における主役）観世流 橋岡家に生を受け、3歳のとき「老松（おいまつ）」で初舞台を踏み、8歳のとき観世流のヨーロッパ7か国公演に加わり「菊慈童（きくじどう）」のシテを務めた。その時にスウェーデン国王をはじめ各国の国家元首にも謁見した。シェイクスピアより200年以上も古い古典芸能の主役を日本で言う小学二年生がつとめ、演劇として成り立っていることがヨーロッパ人にとっても驚かれた。スウェーデンでは、先代である父（八世 橋岡久馬）が最高勲章を受章し、幼かった私は国王から「幸せを運ぶ馬（ダラナホース）」の置物を賜わり、幼心にもたいへん光栄なことだと感激したことを覚えている。以来50年、海外公演は17カ国38都市を数える。

私は、日本の伝統文化を継承する能楽師

であり、一方では、三人の娘を育て上げた一人の父親でもある。特別なことはなにもなく、ごく普通の家庭の子育てだったと思う。一つ気をつけたのは、基本的な礼儀を徹底させたこと。娘が朝起きて親に対して「おはよう」と言おうものなら、必ず「おはようございます」とやり直させた。今、娘たちは大人になり、それぞれの人生を歩んでいるが、我が家は常にお互いを愛しあい尊重しあう関係にある。

私から、子どもたちを教育する立場にある皆さんに次の三つのことを提言したい。

### 1 本物に触れる機会をたくさん与えること

私が見てきた欧米の各都市にはすばらしい美術館、博物館が市民の身近に存在し、そこでは常に音楽会や演劇が催されて、街自体が成熟していた。そういう場所で育った子どもたちは幼いころから本物を目にしている。すばらしい音楽、絵画、お芝居。大人が難しいことを教える必要はない。子どもたちにはわかる。本物に触れた時に、言葉では言い表せない独特の感覚が芽生え、更なる知の好奇心と教養が育まれる。能楽のように650年もの間、社会が変化しても変わらず継承されてきたものには意味がある。無駄のない動きと世界観は、非の打ち所がないほど完成されている。子どもたちには先入観なく、そうした本物を感じて欲しい。また、自分が生まれ育った国の伝統芸能が世界の人々に誇れ

ることを教えると、小学一年生でも目を輝かせ、自国に誇りを持ち、自国との絆を意識する。

## 2 想像力、共感力を伸ばすこと

そのためには、子どもたちにたくさん本を読ませることが大切。国内外を問わず、童話でも小説でも何でもいい。以前、能楽の体験授業で小学校を訪問した際に実感したことがある。当時大人気だったファンタジー映画を観たことがあるか質問をすると、たくさん子どもたちが手を挙げた。次に、その原作を読んだことがあるかと聞くと、その半分位子どもたちが手を挙げた。さらに、映画と原作本どちらが楽しかったかと質問したら「本!」と答える子どもが大勢いた。つまり、子どもたちは、最新技術を駆使した映像よりも行間に広がる想像の世界をはるかに楽しむ能力を持っているということだ。これが想像力や共感力ではないだろうか。この感覚が磨かれていなければ、文章の読解力だけではなく、実際の人間関係における会話も、きつとうまくいかないのではないか。能楽もまた、そうした感覚を育む舞台である。観世流の演目に「吉野天人（よしのてんにん）」という話がある。澄みきった月光のもと、舞い降りた天人が吉野の山一面に咲く桜の花と戯れるかのように舞うストーリーだが、実際の舞台上に置かれているのは一本の桜の枝のみ。しかし、一流の能楽師が舞うと観客の目にはそれが数千本の桜に映る。現代社会における陰惨ないじめや少年犯罪は、こうした感覚がまるで欠如していることに起因するのではないか。

## 3 「形」を身に付けさせること

言い換えると、正しい言葉、礼儀、行動。能楽の世界では「形」を厳しく身に付けさせ

られた。能楽には、三十六歌仙に因み、歌仙会なる催しがある。二百余りある現行曲から三十六曲を選ぶのだが、短い曲で30分、長いものになると2時間をゆうに超える。三十番以上を行うと一日どころか数日がかかりになってしまうので、聞かせどころを行う「囃子」という形式で行う。それでも10時間以上掛かってしまう。夏の日の長い稽古は本当に過酷で、逃げ出したいと思うことも度々あった。しかし、そんな厳しい稽古、催しが能楽師にとっては極めて効果的に芸を身につける「行」なのだ。近年、厳しいこと、辛いことを強いるのがいけないとされる風潮があるようだ。しかし、私から言えば、幼少から青年期までの修行が、一番身に付き、不思議なほど忘れぬものになっている。若い頭脳、若い身体は想像を遥かに超えてすばらしく何ごとでも吸収する。余談になるが、世襲の能楽師は幼い頃から「形」が身につけている。歌舞伎でも養成所から入ってきた役者は独特の言い回しに苦勞するという。どの世界でもざっと動けるのに10年はかかる。世襲の能楽師は生まれながらの血の滲むような鍛錬により自然に動ける。教育の世界でも、いい意味で、厳しく「形」を身につけることを是としていいのではないだろうか。「一度苦勞して身につけた知識や技能は、何人からも奪われない」これが私の考えである。

## おわりに

少子高齢化、家庭環境の多様化、情報化社会と、子どもたちを取り巻く環境が著しく変化する中、皆さんは日々対応に苦慮することと思う。しかし、能楽のように社会が変化しても少しも変わらぬものもある。先生方には、私の思いを頭の片隅においていただき、子どもたちの輝かしい未来に向けた、元気な教育を行って欲しい。

## ゴールデン・スポーツイヤーズとスクール・レガシー

早稲田大学スポーツ科学学術院教授 **まの よしゆき**  
**間野 義之**



### ■ゴールデン・スポーツイヤーズがやって来る

世界3大スポーツイベントは、FIFA男子サッカーワールドカップ、オリンピック・パラリンピック、そしてラグビーワールドカップと言われている。2019年には国内12会場でラグビーワールドカップが、2020年には7都県でオリンピック・パラリンピックが開催される。加えて、2021年には「する」スポーツの世界最大イベントであるワールド・マスターズ・ゲームズ関西が8府県4政令市で開催される。オリンピック・パラリンピックを挟んで3年連続で国際的なビッグイベントが同一国で開催されるのは史上初めてである。

これらをゴールデン・スポーツイヤーズ

と捉え、学校教育の格好の教材として位置付け、児童生徒たちに、そして学校にレガシーを創り遺してはどうだろうか。

### ■レガシーとは

LEGACYとは英語で遺産、先人の遺物という意味である。語源はラテン語のLEGATUSでローマ教皇の特使という意味であり、キリスト教布教の際にローマの技術や文化、知識を伝授することで、布教活動を終えて特使が去ってもキリスト教と共に文化的な生活が遺るということであった。有形・無形に限らず、ポジティブ・ネガティブも含む多様な概念を有する言葉である。

オリンピック・レガシーとは、国際オリ

	2019年 ラグビーワールドカップ	2020年 東京オリンピック・パラリンピック	2021年 関西ワールドマスターズゲームズ
開催期間	9/20～11/2 (44日間)	オリ：7/24～8/9 (17日間) パラ：8/25～9/6 (13日間)	5/15～5/30 (16日間)
主催	ワールドラグビー (World Rugby)	公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック 競技大会組織委員会	一般財団法人 関西ワールドマスターズゲームズ 2021組織委員会
開催地	全国12会場	東京都、6県	関西広域(8府県4生来市)
競技数	48試合	オリンピック：33競技 パラリンピック：22競技	公式競技：30競技約50種目 ※公式競技以外にもデモンストラ ーション競技も開催
参加者 (見込)	20チーム、1,000人 (選手・スタッフ・関係者)	204カ国・地域、15,000人 (選手・スタッフ・関係者)	150カ国・地域以上、5万人 (国内3万人。国内2万人)
来場者 (見込)	200万人	1,000万人 (海外80～100万人程度)	20万人

ンピック委員会(以下、IOC)が最も力を入れているテーマの一つである。『オリンピック憲章』には、「オリンピック競技大会の良きレガシーを、開催国と開催都市に遺すことを推進する」ことがIOCの使命と役割として明記されている。この規定は2003年に加わったもので、立候補都市は、大会開催に伴ってどのようなレガシーを創出するか、具体的プランとしてIOCへの提出が義務付けられている。夏季大会は2012年大会から義務付けが始まった。

2012年のロンドン大会では、教育分野でのレガシーづくりとして“Get Set”プロジェクトを実施した。オリンピック・パラリンピックの価値についての学習機会を提供するため、オリンピック・パラリンピック関連の各種教材や指導案をウェブサイト上で無料で提供した。2012年までにイギリスの85%以上の学校が登録し、約700万人の生徒・学生(11～19歳)がオリンピック・パラリンピックについて学習した。“Get Set”のウェブサイトは現在も運営されており、リオ大会に関する情報、スポーツイベントに関する情報等を発信している。

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会(TOCOG)では、「アクション&レガシープラン」の中間報告で、教育分野について①オリンピック・パラリンピックやスポーツの価値の理解(オリンピック・パラリンピック教育、オリンピック・パラリンピアン)の学校派遣など、②障害者、外国人・海外など多様性に関する理解(障害者スポーツ観戦・体験、学校単位での国際交流、英語村など)、③主体的・積極的な参画と大学連携(学生ボランティア、イベントへの学生・児童・生徒参画、インターンシップなど)を掲げている。

### ■スクール・レガシーを創る

千葉県教育委員会では、「第2期千葉県

教育振興基本計画「新みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」(2015年策定)にて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、運動意欲の向上、運動機会の拡充を図り、運動に親しむ子どもを育むとともに、保護者や地域と連携して体力向上に取り組み、食育を推進し健康な体をつくる子どもを育むこととしている。

地方教育行政法の改正にともない、昨年初めて開催された「千葉県教育総合会議」(主催:森田健作知事)で「千葉県教育大綱」を定めた。知事部局も含めて“オール千葉”で千葉県ならではの資産を生かした多様な教育機会の創出を重点目標のひとつとしている。

ともすると、次々とやってくるビッグイベントを「他所ごと」、「他人ごと」と思いがちであるが、これらを「自分ごと」、「我々ごと」と捉え、子どもたちにそして学校にレガシーを創り遺してはどうであろうか。最高のレガシーはヒューマン・レガシーと言われている。教育大国と言われる日本の学校教育の底力が試されている。

### 【プロフィール】

1963年横浜市生まれ。1986年横浜国立大学教育学部卒業、1988年横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了、1991年東京大学大学院教育学研究科修了。1991年三菱総合研究所入社。2002年早稲田大学人間科学部助教授、2009年早稲田大学スポーツ科学学術院教授。専門はスポーツ政策。博士(スポーツ科学)。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与、スポーツ庁・経済産業省「スポーツ未来開拓会議」座長、横浜市教育委員(2011年～)など。著書に「オリンピック・レガシー～2020年東京をこう変える～」(ポプラ社)、「奇跡の3年2019・2020・2021 ゴールデン・スポーツイヤーズが地方を変える」(徳間書店)など。

# 2020年東京オリンピック・パラリンピック 競技大会に向けた文部科学省の取組について

文部科学省大臣官房政策課評価室／スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課

## 1 レガシーとは何か

国際オリンピック委員会（IOC）の憲法と言える『オリンピック憲章』には次のような一文があります。

「オリンピック競技大会の有益な遺産（いさん）（レガシー）を、開催国と開催都市が引き継ぐよう奨励する。」

オリンピック・パラリンピック競技大会は、単なるスポーツイベントではなく、歴史的に見れば、開催国の人々や社会に「オリンピック・パラリンピックレガシー」とされる様々な良い影響をもたらしてきました。

1964年の東京大会では、国立競技場や首都高速道路、新幹線等のインフラが整備されるとともに、スポーツ少年団や体育の日といった今日では社会に広く浸透している枠組みが作られました。また、2012年のロンドン大会は、成熟国家として「オリンピック・パラリンピックレガシー」の創出に取り組み、IOCをはじめとし国内外から高く評価されています。

2020年の東京大会は、その流れを引き継ぐとともに、世界で初めてパラリンピックをオリンピックと同時に2回開催する国として、更に発展させることが国内外から注目されています。2020年をターゲットイヤーとして、国内外の課題に力強く立ち向かい、様々な取組により日本社会を元気にしていくことが重要です。

## 2 文部科学省としての考え

「オリンピック・パラリンピックレガ

シー」には、競技力の向上や競技施設等の競技大会に直結したレガシーをはじめとして、社会に影響をもたらす有形・無形、計画的・偶発的な幅広いレガシーがあります。レガシーの創出を最大化していくためには、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（以下「組織委員会」という。）をはじめとした各行政機関、企業、NPO等と連携し、一体感を持って、2016年夏に開催されたりオデジャネイロ大会の終了後から直ちに本格的な活動を推進しているところです。

東京のみならず、全国津々浦々に大会の開催効果を波及させ、大会後も地域が力強く発展していくことに加え、東日本大震災の被災地の復興の後押しとなることが求められます。

## 3 文部科学省としての取組

前述の背景、考えを基に、文部科学省は、平成27年11月27日に閣議決定された「2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の準備及び運営に関する施策の推進を図るための基本方針」（以下「基本方針」という。）や平成28年7月25日に組織委員会が決定した「東京2020アクション&レガシープラン2016」（以下「アクション&レガシープラン」という。）を踏まえ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、スポーツ施策だけでなく、教育、科学技術・学術、文化施策について積極的に取り組んでいきます。

○「基本方針」及び「アクション&レガシープラン」に掲げられている主な施策

- ・メダル獲得へ向けた競技力の強化
- ・アンチ・ドーピング対策の体制整備
- ・新国立競技場の整備
- ・教育・国際貢献等によるオリンピック・パラリンピックムーブメントの普及、ボランティア等の機運醸成
- ・スポーツ産業ビジョン（仮）の策定
- ・文化プログラムの推進
- ・先端ロボット技術によるユニバーサル未来社会の実現
- ・スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催

#### 4 オリンピック・パラリンピック教育について

オリンピック・パラリンピックのレガシーを創出する文部科学省の取組の一つとして、「オリンピック・パラリンピック教育」を推進しています。

『オリンピック憲章』では、オリンピズムの根本原則の1において、「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。」と記載されており、さらに、オリンピック・ムーブメントの目的は、「オリンピズムとオリンピズムの価値に則って実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、平和でより良い世界の構築に貢献する」こととされています。

また、国際パラリンピック委員会（IPC）は、パラリンピックのビジョンとして、「パラリンピックアスリートがスポーツにおける卓越した能力を発揮し、世界の人々に勇気と感動を与えることができるようにすること」を掲げ、このビジョンの達成により、

人々の障害に対する意識を変え、そして社会の変革が推進されることとされています。

全国的なオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの推進に当たっては、国民がこうしたオリンピック・パラリンピックの価値や理念を学び、スポーツの価値を再認識し、多くの方がスポーツに親しむことが重要です。

このため、文部科学省では、2015年2月にオリンピック・パラリンピック教育を推進するための方策等について、副大臣の下に有識者会議を設置して検討することとし、同年7月に中間まとめをとりまとめました。そして、2015年10月のスポーツ庁発足に伴い、スポーツ庁長官の下に同会合を再度設置し、本年7月に「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」として最終報告をとりまとめました。

最終報告では、オリンピック・パラリンピック教育を通じて、卓越・友情・敬意／尊重という三つのオリンピックの価値と勇気・決意・平等・インスピレーションという4つのパラリンピックの価値を学ぶとともに、スポーツの価値の再認識を通じ、国際的な視野をもって世界の平和に活躍できる人材を育成することを具体的な目標として掲げています。

スポーツ庁では、2017年度以降、先行して活動を実施している東京都以外の46道府県において全国的なオリンピック・パラリンピック教育が実施されるよう、国、教育委員会、スポーツ関係団体、企業、NPO等が連携した全国的なコンソーシアムの構築や、東京都の先行的な取組の事例紹介・教材の共有、組織委員会におけるオリパラ教育認証マーク付与を通じた全国展開のサポート等を行い、各地の教育委員会の取組を支援する体制を整備する予定としており、各地の教育委員会の御協力をお願いいたします。

## オリンピック教育のこれからの展望

県教育庁教育振興部体育課

### 1 はじめに

今年の夏は、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで盛り上がった。夜中、朝方とテレビの前で応援に明けくれ一喜一憂し寝不足になった人も多いのではないだろうか。

そして、いよいよ2020年、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される。本県では、2016年2月に、2020年東京大会に向けた機運醸成やオリンピック教育を推進するため、公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」という。）とパートナー都市協定を結んだ。

また、東京オリンピックのフェンシング・レスリング・テコンドーが本県で開催されることが決定した。パラリンピックでは、シッティングバレーボール・ゴールボール・車いすフェンシング等の会場となり、機運醸成に向けて盛り上がりを見せているところである。

そこで、本稿では学校教育の視点からオリンピック教育について考察していく。

### 2 オリンピック教育

オリンピック教育とは、オリンピックを題材として、国際的な視野を持って世界の平和に向けて活躍できる人材を育成する教育的活動のことをいう。

学習内容としては、大きく二つに分けられる。①オリンピック自体について学ぶこ

と（オリンピックそのものについての学び）と②今の自分にどう生かせるかを学ぶこと（オリンピックを通じての学び）から構成される。

では、中学校を例にオリンピック教育について取り上げてみたい。

### 3 学習指導要領（中学校）

現行の中学校の学習指導要領では、オリンピックについては、保健体育 体育分野 第3学年 H体育理論において下記のように示されている。

(1)文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

ア 省略

イ オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。

ウ スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

このように、学習指導要領において、中学校3年生の保健体育の学習内容にオリンピックの意義が明示されている。

### 4 JOCオリンピック教室

さて、千葉県では、JOCパートナー都市協定に基づく連携事業として、県内の公立中学校において、JOCオリンピック教室を実施している。（JOCでは、事前啓

発を目的に中学校2年生を対象)

次に、その取組について紹介する。

### (1)平成 28 年度実施校 (6校)

千葉市・葛南・東葛飾・北総・東上総・南房総地域で各1校

- ・千葉市立磯辺中学校
- ・浦安市立浦安中学校
- ・柏市立土中学校
- ・銚子市立第三中学校
- ・茂原市立茂原中学校
- ・市原市立国分寺台西中学校

### (2)授業について

オリンピック (オリンピック出場経験アスリート) が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックのものではなく多くの人々が共有し、日常生活にも生かすことができることを学習する。

「学級ごと 連続2コマの授業 (運動 50分 + 座学 50分)」

運動：オリンピックの専門競技の技術指導ではなく、運動が苦手な生徒も参加できる内容

座学：国際オリンピック委員会 (IOC) が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かりやすく伝える学習内容

### (3)授業の内容

授業は、次の3つのことを柱として構成される。

エクセレンス (卓越)：自己を信じて最善をつくすこと

フレンドシップ (友情)：仲間を信じること

リスペクト (敬意 / 尊重)：他者への尊敬

この柱に沿って、オリンピックが、アスリート自身の体験をもとにオリンピックの価値を生徒に分かりやすく伝えていく。生

徒は、これを受け、今の自分に何ができるのか、今後どのように生かしていくのかを考える。今の自分自身を振り返り、将来の目標を立てる良い機会となっている。

## 5 今後の方向性

このような視点でオリンピック教育について見ていくと、今後の方向性が見えてくる。

一つは、オリンピック教育を実施するにあたり重要なことは、オリンピックを自分自身とどう関わりを持たせていくかを生徒に意識させることだろう。オリンピックをかけ離れたものとして捉えるのではなく、生徒がどう関わっていくかを考えさせることがポイントとなる。

もう一つは、オリンピック教育はオリンピックに向けての機運醸成とともに、オリンピック終了後も継続して取り組んでいくことが大切である。オリンピック・レガシーとしてオリンピックの価値を生徒の人生に生かしていけるよう、授業に仕組んでいくことが必要である。

## 6 おわりに

今後の課題として、学校・自治体は独自の教材開発が必要となってくるであろう。このオリンピック教室が一つの契機となってくれば幸いである。

オリンピック教育により、生徒が生涯にわたってスポーツに親しむ機運が高まることを期待して本稿を終える。

### 【参考資料】

- ・「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて (中間まとめ)」(オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議)
- ・「JOC オリンピック教室開催実施要項」  
(JOC 公式サイト)

## オリンピック・パラリンピック教育の推進

松戸市教育委員会

### 1 はじめに

本市は、千葉県の北西部（東葛地域）に位置している。東京都心から20km圏にあり、西は江戸川を境にして、東京都葛飾区・江戸川区と接し、首都圏の住宅都市としての発展を続けている。人口は48万人を超え、50万人を目前としている。

江戸時代には、江戸と水戸を往来する街道の宿場町として、また銚子の鮮魚を江戸に運ぶ中継地となり江戸川水運の要衝としてにぎわいを見せた。

都市圏としての姿を見せる一方、農業も行われ、西側の江戸川を背後に控えた低地では、葱や枝豆、蕪等の農作物が栽培されている。東側の台地は二十世紀梨の発祥の地でもあることから、梨の栽培がさかんで、観光農園もあり、市の名産物になっている。

小学校45校23,168名、中学校20校11,532名の児童生徒が学んでいる。本年度、人口増に伴い東松戸小学校が開校し、29年ぶりに新設校が設置された。しかし、小学校では学年4学級を数える学校が16校ある一方、学年1学級の学校が6校ある。中学校も同様に、学年9学級の学校がある一方、学年2学級の学校も存在する。増加傾向にある地域とそうでない地域が混在している。

### 2 本市の取組

本市では、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、「東京オリンピック・

パラリンピック推進本部」を設置し、「松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティおもてなシティ推進のための基本方針」を策定した。そして、大会後も成果を持続するレガシー（未来への遺産）の構築に向けて、取組を推進している。

「オリンピック・パラリンピック教育」の推進については、スポーツの意義や価値の理解・関心の向上、障害者を含めた多くの国民の生涯を通じたスポーツへの参画、児童生徒をはじめとした若者がこれからの社会に必要とされる資質・能力を育むことが目的であり、学校教育においても大きな意義があると考えている。

そこでトップアスリートやオリンピック・パラリンピアンと直接ふれあう機会や指導してもらおう場を設ける取組をスタートさせた。

#### (1)「夢の教室」の開催

「夢の教室」は、公益財団法人日本サッカー協会「JFAこころのプロジェクト」が開催している。Jリーグやなでしこリーグ、その他様々なスポーツの現役選手やOB・OGなどの関係者が学校を訪問し、「夢」の講義を中心とした出前授業を展開する。

新旧トップアスリートを「夢の先生」として迎え、子どもたちとの交流を通して、運動やスポーツへの興味関心を高め、アスリートの生き方やキャリアに触れ「夢を持つことのすばらしさ」「努力することの大切さ」を伝えてもらい、可能性に挑戦する

勇気や夢・目標を持つ力の重要性を学んでいる。

本市では、この取組を平成27年度から開始した。初年度は5校8学級の実施であったが、2年目の28年度は、6月24日を皮切りに、来年1月29日まで、2学期を中心とした派遣計画を進め、その派遣校数は18校47学級と拡大した。

## (2) トップアスリート、地域プロスポーツ選手との交流

本県教育委員会では、「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を行っている。この事業を参考にし、より多くの児童生徒に交流の機会を提供し、運動への意欲を高めること、実際に体験し、その運動のポイントとなる動きを習得することで、技能・体力の向上を目指すことを目的に、派遣事業を展開している。

### ① ベースボールチャレンジ

本市では、「松戸市体力章」を設けている。これは、体力向上策の一つとして、昭和47年に制定した。小・中学校別に5種目の運動で基準を設け、その基準により「特級体力章」「体力章」「種目別体力章」を授与している。5種目全ての基準に到達した児童生徒には「特級体力章」の盾を、「体力章」「種目別体力章」の受賞者には賞状を授与し、運動への意欲化を図っている。

しかしながら、体力・運動能力調査の結果からは、握力と投力の低下傾向に歯止めがかからない状況が見られる。

そこでトップアスリートの的確な指導とそのノウハウから、運動の楽しさを味わわせ体力を高めようと千葉ロッテマリーンズの「マリーンズ・ベースボールチャレンジ」の取組を始めることとした。本年度は、4校13学級で開催した。

### ② タグラグビー教室

昨年度のラグビーワールドカップでの日本代表の活躍、リオオリンピックでの7人

制ラグビー導入でラグビーが注目されている。話題性からも運動に親しむきっかけがつかめると考え、東葛地域のプロスポーツチームであるNECグリーンロケッツの「タグラグビー教室」の取組をスタートした。現役選手に直接指導を受けることは、児童生徒にとって大きな経験となるはずである。本年度は2校6学級で開催の予定である。

### (3) パラスポーツへの理解を深める

パラスポーツに触れることは、障害に対する認識を深め、障害に負けることなく強く生きる姿に触れる機会でもある。昨年度、松戸市では、招致活動に参加し選手としても活躍しているパラリンピアンへのトークイベントを開催した。また、車椅子バスケットボールチームを招いての体験学習を開催している学校もある。パラスポーツへの取組は未だ調査研究段階であるが、地域を軸とした展開を進めていきたい。

## 3 おわりに

平成28年7月、スポーツ庁より「オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」の最終報告が出され、その意義や方策が説明されている。初等中等教育では、「努力の尊さやフェアプレーの精神、思いやりやボランティア精神、多様性を尊重する態度などの資質・能力が子供たちに育まれることが期待される」とある。大会成功に向けての国民意識の高揚とともに、これからの社会で必要とする資質・能力を育むことを目指すこととなる。

市教育委員会としては、最終報告から、オリンピックの3つの価値（卓越・友情・敬意／尊重）、パラリンピックの4つの価値（勇気・決意・平等・インスピレーション）をふまえた教育活動が展開できるよう、学校と共に取組を進めていきたいと考える。



## 継続とカイゼンそして成長 ～地域コミュニティと共に～



松戸市立小金北中学校長 あゆかわ 鮎川 わたる 渉

### 1 はじめに

何でこんなにしゃべれなくなってしまったのだろう。今まで、生徒の前で話をするとき、原稿など書かなかつたし、保護者会の時など書いても読まずに話をしていたのに…。

全校生徒の前で、校長として話をしようとする、「間違っことは話せない。」と思うと原稿を書き、何度も書き直す。いざ話すときは「読んででは伝わらない。」とわかっていながらも間違えないように原稿を見ながらの話になってしまう。今までも無責任に話をしてきたつもりはないが、校長としての責任の重さ、プレッシャーがこんな風に表れるとは思ってもいなかった。そんな戸惑いを持ちながらも、自分なりに推進してきた学校経営を振り返ってみたい。

### 2 継続とカイゼン

#### (1)継続とカイゼンの意味

本市教育長から、「校長がかわれば学校が変わるという言葉があるが、校長がかわった、交代したからといって、学校が変わってはいけない、不安定になってしまう。前年度の引き継ぎをベースに微調整し、順を追って進めていかなければいけない。自分はこれが得意だから、好きだからといってそれを中心にやるんだ。というのは思い上がりだ。」というお話をうかがった。

この言葉を踏まえ、校長就任当初、学校

経営の重点は「踏襲と改革」「継続とカイゼン」としていた。しかし、年度途中で、先輩校長から「引き継ぐのは理念。中身は自分で決めなければいけない。またカイゼンだけでなく、成長戦略を」というお話をいただき、「継続とカイゼンそして成長」を念頭に学校経営に取り組んだ。

#### (2)本校の特徴

ここであらためて本校の特徴を紹介させていただく。本校は、松戸市の北西部に位置し、坂川を境として流山市と隣接した幸田丘陵を望む水田穀倉地帯に平成2年に松戸市21番目の中学校として開校した。松戸市の中では新しい中学校である。歴史が浅いながらも、創立当初から続いている主な2点を紹介させていただく。

##### ①小金北中八か条

###### 小金北中八か条

- 第一条 さわやかな挨拶をしよう。
- 第二条 さわやかで節度ある身だしなみにしよう。
- 第三条 自ら時間を守り、能率的・効率的に使おう。
- 第四条 安全に気をつけ、節度ある生活をしよう。
- 第五条 昼食の時間を通して、仲間とのふれあいを深めよう。
- 第六条 みんなで使うものや施設を大切にしよう。
- 第七条 勤労と奉仕の心を持ち、常に学校の美化に努めよう。
- 第八条 誰とでも仲良く活動し、お互いに高め合おう。

本校には開校以来、校則は制定されていない。それに代わって、小金北中八か条という約束が創立当時の生徒会を中心に作られ、それを、上級生から受け継ぎ、生徒たちは大切にしてくれている。職員も、いつもこの八か条に照らして生徒たちに自身の生活を見つめ直すよう指導・支援している。

## ②地域との協働・連携について

本校には、「小金北中学区教育コミュニティ会議」という組織がある。この組織は発足当時全国的に発生した「いじめによる自殺」に対する危機感を強く持った学校と保護者代表が中心となって、学校・家庭・地域の連携組織として1995年3月に立ち上げたものである。

この活動の大きな特徴は、三者の「協働」にある。それまで、学校・家庭・地域の役割分担を明確にするべきであるということが言われていたが、「分担」を強調することにより他方の責任を追及したり、自らの責任を回避するなどの傾向も見られた。そこでこの組織では、三者が協力して、同じ事業を行うことを通して相互理解を深め互いに補い合う協力関係を築くことを目指して以下のような活動をしている。

(ア) 世代交流会

(イ) ボランティア体験学習

(ウ) 子育てふれあい教室

(エ) 教育相談

(オ) 学習支援

→詳細については本校 WEB ページを

## (3)継続するものこそカイゼンする

継続するもの、カイゼンするもの色々ある。前記の①と②は既に簡単に無くすことができない、つまり継続していくものである。しかし、継続すべきものだからこそ、現状を的確に把握・分析をし、カイゼンし

ていくことが大切であるとあらためて感じた。

たとえば①の八か条を例にとると、実際には理念だけでは指導がしづらいということで職員用に生徒指導マニュアルが作成されていた。時代と共に中身は見直されてきたが、知らぬうちに管理的、対症療法的なものになっていた。確かに指導の線引きがあれば指導はやりやすいが、八か条に返して生徒に考えさせ、成長させるという理念から遠ざかってしまっていたのである。1年かけて生徒指導部会で検討を進め、原点に戻りつつも現状にあったマニュアルに作り直したところである。

## 3 おわりに

これからの本校の成長にとって、地域コミュニティとの協働・連携は一層欠かせないものとなっていく。学校・家庭・地域は、人と人との出会いを通し、より良い生き方を学ぶ大切な教育の場であるとともに、学んだことを実践する場でもある。その特性と役割を大切にしながら、三者が一体となった組織的な活動を展開することは、人間の成長・発達にとって大きな影響を与える。家庭及び地域社会で育ち、これからも地域社会で生きていく子どもたちの健全な成長・発達を考える時、学校を核に家庭と地域が協働・連携して「ともに子育て」という意識を共有し、地域コミュニティづくりに努める事はたいへんに意義のあることである。今後もそれぞれがもつ役割を担いつつ、地域を愛し、地域社会の将来を担う子どもたちの「生きる力」「思いやりの心」を育むことができるよう、また、長く継続できるよう、現状把握と分析をしっかりと行った上で、実践を工夫改善し、成長へとつなげていきたい。

学校を  
支える

## 「チーム生浜」の取組



あおやぎ よしかね  
青柳 表錦  
県立生浜高等学校教頭

### 1 はじめに

本校は全日制と三部制の定時制を併置している。創立は昭和53年だが、平成19年に三部制の定時制が併置され、10年目を迎える。全日制と三部制の定時制を併置している高等学校は県内唯一であり、全国的にもあまり例がない。

現在、全日制は各年次2学級の計6学級。三部制の定時制も各年次2学級の計24学級。三部制の定時制は、午前部・午後部・夜間部の3部でそれぞれ登校時間が違う。

職員は、全日制と定時制の職員及び非常勤講師を合わせると100名を超える。勤務時間は、全日制と午前・午後部が午前8時25分から午後4時55分、夜間部が午後0時45分から午後9時15分である。一つの学校の中で、複数の生活パターンがある複雑な学校である。全日制の教頭として、また高校に赴任して2年目だが、本校の取組を紹介したい。

### 2 各課程の特徴

#### (1) 全日制の課程

全日制は、「一步前に踏み出せる学校」を合い言葉にしている。

中学校ではクラスや部活動などで目立った存在ではなかった生徒でも、それぞれに得意な場面で自分らしさを表現できる場があるのが全日制の特徴である。

全日制は各年次2学級ずつしかない。従って全日制の全職員がほぼ全生徒の授業を担当している。しかもほとんどの授業が

少人数、習熟度別に展開されるため、生徒一人一人に合わせた丁寧な指導がなされている。

さらに1年次から3年次の全生徒を対象に学び直しのトレーニングとしてベネッセの「マナトレ」を帰りのSHRの前に実施している。

本校では、授業が2コマ連続の90分授業（全定共通）なので、先生方は、基本的事項の確認やペアワークなどを取り入れた演習など様々なアプローチを試みて、授業を展開している。

また、生徒一人一人との距離が近いので、職員室にいると気になる生徒や頑張っている生徒の様子が先生方の会話から良く伝わってくる。特に気になる生徒がいれば、担任一人に任せるのではなく、全日制職員それぞれの立場で対応できるよう情報の共有化を図っている。場合によっては、スクールカウンセラーを交えケース会議を開くなど、生徒一人一人への対応を丁寧に行っている。

#### (2) 定時制の課程

三部制の定時制は、他部の履修等により、3年間での卒業が可能で、自分のペースで時間を有効活用できるように一人一人の日課が組まれている。特に、午後部・夜間部は通学の時間に余裕がある。

少人数編成の授業は、基本的事項の学び直しから、専門的な内容まで豊富な科目が設定されている。近年、外国をルーツとする生徒が増加傾向にあるため、日本語を母

語としない生徒へのサポートプログラムや中学時代に不登校を経験している生徒への不登校回復プログラムなどを立ち上げるなど本校に入学してくる生徒のニーズに合わせた取組を行っている。

### 3 全定一体の取組

本校では以上のような二つの課程が一体となった学校づくりを行っている。

例えば、部活動の中心は全日制や午前部の生徒だが、顧問は全定の職員が一緒になって指導を行っている。

「中学ではずっと控え選手だった」とか「県大会には出場経験がない」という生徒が少なくないが、生徒の活躍の場であると同時に心身の成長の場ととらえ技能向上はもちろん心の成長にも重点を置いた指導が行われている。最近はその頑張りが形となって表れ、県大会へコマを進める部活動も多くなってきている。

また、公開3年目となる「しほた祭（文化祭）」は、全校が一つのテーマのもとで活動し、全定それぞれの学級が同じ時間帯に発表する形をとっている。他にも年度初めの遠足や修学旅行は、年次ごとに全定が同じ日程で行い、横のつながりを大切にしている。

それぞれの課程での考え方や取組方は違う面もあるが、教職員が丸となって「チーム生浜」を形成し、教育活動にあたっている。

### 4 保護者や地域とのつながり

#### (1)生浜Now

本校ではホームページを1日に2回更新している。一度目は朝（登校前）で、本日の予定を掲載、二度目はその日の出来事やトピックスを夕方に更新している。1日2回の更新はたいへんだが、「登校できなかった生徒に学校の様子を伝えたい。」「保護者

の方が学校で何をしているのか知ってほしい。」という担当職員の熱い思いがあるからこそできていることである。

#### (2)地域との交流

保育園と合同の防災訓練、通学路清掃、敬老会等の地域行事への参加、花植えの活動や異校種交流などを行っている。地域の方々との会話の中で、改めて学校への期待が大きいことが分かる。学校と地域のパイプ役として地域の行事には生徒を含めて積極的に参加している。

### 5 支えられて

先にあげたホームページの更新も様々なプログラムも、本校生徒の頑張りを少しでも支援していきたいと願う多くの職員によって成り立っている。

教頭として果たすべき役割は、先生方からの提案や思いを実現させるために調整を図っていくことであり、さらに今何が必要かを示し、進む方向をはっきりとさせていくことである。しかし、教務関係のこと、生徒指導に関する事など様々な場面で、それぞれの担当職員に支えながら毎日過ごしているのが現状である。

そこで、教頭としてできることは、日頃から先生方とのコミュニケーションを大切にすることである。できるだけ準備室等に行き、直接話を聞く。常にアンテナを高くして生徒や職員に関する情報を得ることである。

本校には、校長だけでなく、定時制には副校長と教頭がいる。信頼し、相談できる先輩管理職がいることはとても心強い。今後もネットワーク・フットワークそしてチームワークの3つのワークを大切に「チーム生浜」がより一層結束できるよう努力していきたい。



## 教務主任の役割とは

～理解し、<sup>つな</sup>繋ぎ、引き出す～



山武郡横芝光町立日吉小学校教諭 <sup>もりや</sup>守屋 <sup>あつし</sup>敦

### 1 はじめに

最初に「千葉教育」の原稿依頼を受けたとき、今までの取組を整理し、自分自身の職務に対する姿勢を再点検する良い機会だと感じた。ここでは、教務主任として普段私が意識して取り組んでいることが、結果、学校の変化や成長の一助になっているのではないかと考えることを紹介させていただく。

### 2 職員室という学級

教師として教壇に立つとき、その立場は多くの場合学級担任である。私自身も現在は、過小規模校勤務のため、教務主任と兼任という形であるが、一学級担任である。教務主任を務めるようになった今、強く感じることは、「職員室も一つの学級」ということだ。校長が学級担任であり、教務主任は担任の考えをクラスメイトに浸透させる級長である。

私は、教務主任として、以下の3つのことを大切にしている。

#### (1)校長の意図を理解する

学校が目指すものは何か。それは、学校教育目標を達成することである。学校で何かを始める場合、教務主任はその多くの取組の発起人となる。私は、日々、校長がどのような学校像の実現を描いているのかを考えている。それは、校長との会話の中で直接言われることもあるし、発する言葉や行動の端々から感じることもある。それを職員の活動として具現化し、自分が率先垂範し動くことで、先生方の協力を得ている。なぜなら、行動には最高の説得力があるからだ。学校は一人では動かせない。周りの先生方に身をもって示し、協力を得ることは必要不可欠である。

#### (2)教頭との連携

本校は、田園地帯にあるのどかな学校だ。全校児童65名で児童同士の仲が良く、まるで全員が兄弟のようである。さらに、学校と地域との垣根も低く、保護者は温かく学校に対してたいへん協力的だ。その地域との窓口は、教頭である。私は、職員全員が協力して得た地域や保護者の学校に対する願いや期待、時には要望や不満といった情報を大切にしている。それを毎日の教頭との会話から得て、解決策を具現化している。本校のような地域に密接した過小規模校では、たいへん重要なポイントである。

#### (3)力を引き出す

「指導力」とは何か。私は、その人の持っている力を引き出す力だと考える。先に述べたとおり、本校は児童数が少ないため、それに比例して職員数も少ない。つまり、職員個々の力をいかに引き出すかが重要である。そのために私は、毎日全員の先生方と会話をし、その人となりを理解しようと努めている。そして、先生方の優れている面は、みんなの前で伝わりやすく賞賛している。プラスの投げかけは、その人の持つ力を最大限に引き出すからだ。これは、職員も子どもたちも同じである。学校は組織で動いている。一人一人の力量を高めれば、最高の組織となる。

### 3 おわりに

今回、このような機会をいただいて、改めて自分自身の教育観・指導観を振り返ることができた。実際にはうまくいかないこともあるが、今後も子どもたちが毎日笑顔で過ごす、活気のある学校づくりに邁進していきたい。



## 企業派遣研修を学校現場で生かす

～ウェザーニューズ社での研修から学ぶ～



千葉県立千葉高等学校教頭 いちかわ 市川 とおる 透

### 1 はじめに

ベテラン教員の高齢化、若手教員の大量採用により学校が大きく変化している。ベテラン教員の意識改革や若手教員の指導力の向上など、全職員が組織的に取り組むことが必要とされている。また、学力向上や外国語教育の充実、その評価方法などの多くの課題がある。

今回の研修において、5年後、10年後の学校現場の職員構成と同じようなウェザーニューズ社において、「企業の組織マネジメント、若手人材の育成や企業戦略としてのグローバル展開」を学び、学校現場に生かしたいと考えた。

### 2 ウェザーニューズ社の研修で得たこと

ウェザーニューズ社は、創業以来「イニシアチブ、相互信頼、共同体の一員としての自己認識」の3つの文化を大切に継承しながら、更に進化している。海外との取引も多く、国際色豊かな人材を確保している。若い社員も多く、活気あふれる企業である。

私は、4か月間勤務し、主に総務部の配属で、秋の採用試験、新入社員研修などの補助、気象センターでのモニタリングなど様々な業務を経験することができた。

#### (1)戦略的方針決定と情報の共有化

顧客ニーズの高度化・多様化等に対応したフラット型組織となっており、トップと社員一人一人、あるいは現場とのコミュニケーションが取りやすい体制である。新たな企業戦略の企画、運営が短期のうちに実行できる社内システムである。また、不定期であるが他部署への異動があり、複数の部署を経験し、会社の業務を多方面から見る体制をとっている。月曜日の午前、テレビ会議システム、通訳を通して、国内拠点、海外拠点を含めて、全社員に情報の共有化をしている。また、新しい情報は直ぐにイントラにあげ、社員が直ぐに情報を確

認し、対応できるようになっている。

#### (2)自主的な研修、個に応じた研修

全体研修の内容の一部を、新入社員自ら計画し実施している。また、一人の新入社員に対して、担当者の他に多くの社員が新入社員の情報を共有して見守っている。また、将来の管理職候補者の育成も経営陣の主導のもと実施され、仕事に対する考え方、責任感等についてリーダーとしての見識をもたせながら研修を実施している。

### 3 企業研修を学校現場で生かす

#### (1)職員間の情報共有と迅速な対応

学校組織も担任や部顧問を通して生徒、保護者や地域の意見を集約し、ニーズに対応できる組織づくりを更に進める必要がある。校務分掌においてもいくつかの分掌を経験し、多方面から教育活動を見る目を養い、各分掌の枠にとらわれず、互いが情報を共有しながら生徒の教育に素早く対応できる体制作りを進めていきたい。

#### (2)若手人材育成について

主体的な研修、多くの教諭による多面的な研修などを、より積極的に進めていくことが必要だと考える。経験者研修においては数年後のリーダーとしての認識を持たせスキルアップのできる環境を作っていきたい。

### 4 おわりに

企業派遣研修を通し一番感じたことは“人”を大切にするということである。社員の職場環境の保障はもとより、しっかりとした若手への対応、non-Japaneseの社員への細やかな支援などがある。学校現場もベテラン教員世代の親の介護や若手世代の子育てなど、今後、更なる職場環境の変化への対応をしっかりとしていきたい。

最後に、このような貴重な研修の機会を得ることできたことに心から感謝致します。

授業を  
創る

基本にもどって



千葉県立小中台中学校教諭 **さわだ けんすけ**  
**澤田 健介**

1 はじめに

社会科において、良い授業とは何だろう。「貿易摩擦ゲーム」や「模擬裁判」など子どもたちが実感をともなって学ぶ授業を考え、授業づくりをしてきた。グループ活動や資料から考える活動を多く取り入れることで子どもたちが、主体的に学習に取り組む姿が見られ意欲の向上を図ることができた。しかし、学習のまとめでは、「楽しかった」「次は勝ちたい」など授業の目標に対するまとめではなく、活動内容など、教材に関する内容が多く見られた。公民的資質の基礎を養うための教科として、子どもたちの意欲を高める教材を考えるだけでは、良い授業にはならない。グローバル化やIT革命、公職選挙法の改定など、目まぐるしく変化していく時代の中で、どのような授業をつくっていったらよいのだろう。そんな思いを持ちながら、授業を改善すべく、昨年3回の研究授業に取り組んだ。私の目標は「良い授業をつくる」である。

〔目指す良い授業象〕

- ・ 学ぶべき事をしっかりと学ぶことができる
- ・ 子どもたちが実感をともなって学ぶ

2 授業づくり

良い授業をつくる時に大切なことは、何だろう。今まで授業づくりをする時は「教科書を教えるのではなく教科書で教える」この言葉の意味もしっかり理解しないまま、子どもの興味を引きつける内容、教材の面白さ、結果の意外性などに着目して、教材を主体とした授業づくりをしてきた。その結果、教材づくりに関しては、いろいろなことを学ぶことができたが、授業とし

ては、良い内容とは言えなかった。学ばせるべきものを、学ばせることができない授業になってしまっていた。そこで、授業づくりの順序を見直し、図1のように基本に戻って考え、進めることにした。

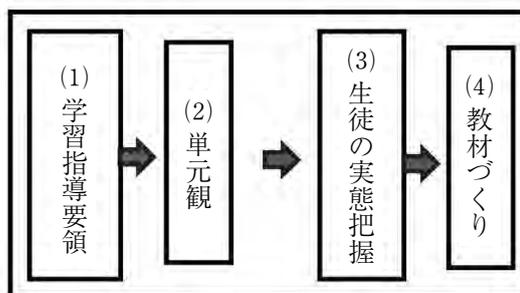


図1 授業づくりの順序

(1)学習指導要領を読み込む

第一に取り組んだことは、学習指導要領にしっかりと目を通し、その単元の目標や内容の取り扱い、本時の目標をしっかりと考えた。このことで、学ばせるべきことがはっきりとし、授業のゴールを明確にイメージすることができるようになった。これは、今までに無い感覚で、良い授業づくりの手応えを感じた。

(2)単元観を深める

次に、単元観を深めることに取り組んだ。今までは教材主体だったので、本時とその前後を結び付ける事ができていれば良いと考えていた。その結果、つじつま合わせのような授業になっていた。単元観を深めていくと本時だけを考えるのではなく、全ての時間のつながりを考えることができ、単元を貫く授業構成を作ることができるようになった。

(3)生徒の実態把握

生徒の実態把握では、興味関心や既習・

未習事項の確認の他、現代の社会事象や学習形態など、授業構想を念頭に細かく調査し、学級並びに個人の実態をしっかりと把握するようにした。それにより、授業形態や個に応じた指導をしっかりと考えることができた。

#### (4)教材をつくる

以上の事を基にしながら、生徒の実態に合わせて教材を考えることで、教材づくりにも今まで以上に意味を感じるようになった。生徒の興味関心を高めるだけでなく、その教材を使うことで、単元の目標を達成することができるかどうか。学ぶべき事がしっかりと学べるだろうか。そして、これからの時代を生き抜く力を身に付ける事ができるだろうかということを考えながら、学習課題を考え、教材づくりに取り組んだ。

授業づくりの順序を見直すことで、今までの教材づくりでは、感じられなかった様々なことを感じる事ができた。「良い授業をつくる」という目標の達成に向けて進んでいることを実感した。

### 3 授業実践

ここで、研究授業のまとめとなった、千葉市社会科主任会で展開した授業実践を紹介する。

単元名 公民的分野 「地方の政治と自治」

#### (1)学習指導要領から

この単元では、地方自治の基本は住民自治にあることを理解させることと、議会制民主主義の意義について考えることがねらいとなることを指導要領から読み取った。

#### (2)単元観

学習指導要領のねらいを受けて、地方自治を取り巻く現代の様子と生徒たちに身に付けさせたい事について以下のように考えた。

○現代の様子について

(ア)公職選挙法による18歳の選挙権

(イ)まち・ひと・しごと創生法の制定

(ア)からは、参画の意識を身に付けることが大切だと考える。(イ)からは、地方自治が担う役割が多くなっていることを知り、その中で住民の1人として地域作りに積極

的に関わろうとする態度を養いたいと考えた。

#### (3)生徒の実態と教材

本学級の全員が社会科を「好き」と答えている。

理由は、生活に身近だからという意見が多かった。このことから、本単元の教材を生徒に一番身近な学校に着目して考えようと思った。

また、千葉市に着目して単元を貫く構成を考え取り組んだ。

千葉市の教育に関する三つの政策の優先順位について資料を基に少人数グループで話し合いながら、論理的に決めて行くという教材を考えた。単元を貫いたことで、市の政策に対する議論や千葉市の予算など幅広い視点で考えられるようにすることで、単元の目標により迫れるのではないかと考えた。

#### (4)まとめ

授業を終えた生徒たちのまとめは、「千葉市の政治にもっと興味を持って生活したい」や「積極的に自治に参加したい」など自治への関心、参画意識の高まりを感じるものだった。

### 4 おわりに

授業づくりの順序という基本から振り返り、つくり上げた授業は、生徒が実感をともなって、学ぶべきことを学ぶことのできる良い授業になった。

昨年の授業研究から「面白い」＝「良い」ではないと実感した。本研究で学んだことを、若い先生方に伝えたいと強く思った。子どもたちのことを一番に考え、面白さだけを考えると、本質を見失ってしまう。授業づくりの基本をしっかりと押さえることで、良い授業になっていくと思う。また、多くの先輩から御指導、御助言をいただきながら授業を振り返る機会をもつことは、とても大切なことだと実感した。これからは生徒のために、そして自分自身の成長のためにともに育つ「共育」を目指してこれからも努力したいと思う。

子どもを知る

## すべては子どもたちのために

～私の目指す教師～



袖ヶ浦市立根形中学校教諭 おのでらしおり  
小野寺 汐莉

昨年度、本校に赴任し中学1年生の担任となった。子どもたちと一緒に笑い、悩み、時には涙した。教師はこんなに楽しいものか。と日々充実した毎日を送ることができた。そんな私も2年目となり、一年間共に過ごした1年生と一緒に2年生になった。右も左もわからない1年生とは違い、先輩という立場や中堅学年、ひいては根形中学校を引っ張る存在になる2年生の子どもたちは、入学した頃よりもとても大きく成長した。「今年の2年生はすごかったんだなあ」「3年生に負けないように頑張ろう」。日々、自分を見つめ直し、くじけそうになる心を必死に支え、ささいなことにも真剣に考えて行動する子どもたちを見ていると、こちらまで勇気がわいて、頑張ろうと自身を鼓舞することができる。

中学生は、大人と子ども両方の精神が混在する。悩まない日は無く、いつも自己嫌悪をしている。周囲に気付かれないように我慢をして、家でひっそりと泣いている子もいる。私は、そんな子どもたちに寄り添った教師でありたいと思う。悩みを話すだけで心が晴れるのなら、その一人のために時間を使う。保護者とうまく折り合いがつかないのなら、保護者を交えて一緒に解決策を考える。暗い顔をしていたら、明るい声掛けをして他愛ない話をする。こちらが少し気にかけて行動するだけで、子どもたちの観る景色は一変する。

「すべては子どもたちのために」一人一人に寄り添える、そんな教師をこれからも目指したい。

子どもを知る

## 生徒の成長と自分の成長



県立八街高等学校教諭 たかなし ともや  
高梨 智也

私は現在高校3年生の担任をしています。生徒たちにとってこれからの人生を決める最も大切な1年間であると考えています。そのため学級経営にしても、教科指導にしても、部活動にしても、全力で生徒たちの気持ちに向き合っていこうと思っています。教員として教壇に立つにあたって、私が一番意識していることは、生徒は今どんな気持ちで、どんな思いで行動しているか把握することです。生徒理解をした上で、指導に当たることによって少しでも生徒の成長につながればと思っています。

夏休みが明けてからは、就職試験や進学に向けての進路指導で生徒とかかわる時間を多く取ることができました。その指導の中で、生徒一人ひとりの考えを知ることができ、より深い信頼関係を築くことができました。その影響か、教材研究等で帰宅が遅くなる日が続いていた私に対して、「先生、今日も一日頑張ろうね。」とクラスの生徒が声をかけてくれるようになりました。生徒に心配をかけさせてしまっただけで教師として失格だと感じながらも、生徒からの優しさを感じることができ、「これではいけない。」「もっと頑張ろう。」と思うことができました。そんな生徒たちと共に学校生活を送ることができるのも、あと数か月となってしまいました。まだまだ、教師として伝えなければならないこともありますが、卒業式では笑顔で生徒たちを送り出していきたいです。

## ■ 小 学 校 編 ■

# 読書力を高め言語文化に参加する児童の育成

～読解と読書の融合をめざすミステリーのシリーズ読書～

船橋市立西海神小学校教諭 さんぐうまゆみ  
三宮真由美



### 1 研究の概要

国語教育においては長年、読解と読書はともに重要であるとされながらも、実際には分析的な読解指導が優先され、読書指導は発展的な扱いにされがちであった。一方、欧米では、読解と読書が区別されることなく行われ、それらを融合した読書力が重視されている。各種の学力調査では、読書習慣がある児童ほど読解力の得点が高い傾向にあるという結果が出ており、読書が読解力の向上にもたらす効果は大きい。読書を基盤として効果的に読みの力を高めていくような学習指導が更に求められている。

そこで本研究では、読書を通して読解が進み、更なる読書へと誘うような学習方法の開発を行う。具体的にはミステリーの古典的名作であるシャーロック・ホームズシリーズを読み、ガイドブックを作るという、読書活動を基盤とした言語活動を設定する。ミステリーはどの世代にも人気の高いジャンルであるが、国語教育において読書材として取り入れられることは少なかった。しかし、ミステリーは他のジャンルに比べ構成が捉えやすく、人物像や登場人物の利害関係を精読することや、動機や伏線や手がかりなどの様々な情報を相互に関係付け、分析し解釈して読むことを、他のジャンルよりも強く要求する。またシリーズで読むことで、複数のテキストを比較し評価する力を高めることができる。このようにミステリーをシリーズで読むことを通して構成や人物を捉えるといった文学を読む上で必要な読みの力に加え、分析的に読み解

釈し評価するといった読みの力をも高めることができるのである。

また、読書教育においては量を読むことに関心が向きがちであるが、読書の質自体を上げていくことが大切である。シャーロック・ホームズシリーズは、120年もの間世界中で読み継がれてきた古典的名作であり、多くのパステイッシュ（作風の模倣）やシャーロックキアンと呼ばれる愛好家が存在する。当シリーズを読むことは、これら読書生活者の言語文化の継承と創造の営みを知り、体験することでもある。このようにして、本を取り巻く言語文化に参加することが、読書の質を高め、更なる読書を生むのである。

以上のように、読書活動を基盤としたホームズシリーズのガイドブック作りの言語活動が、読解と読書を融合した読書力を高めることに有効であるとともに、本を取り巻く言語文化に主体的に参加できる児童を育てることができると考え、本主題を設定した。

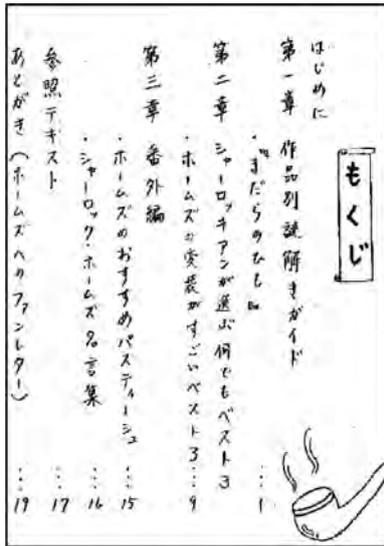
### 2 研究の実際

#### (1) 第一次 シリーズに興味・関心を持ち、学習の見通しをもとう（2時間）

1時間目は、クイズや人形劇のDVD視聴、教師自作のホームズ新聞等で、シリーズへの誘いを行った。授業後には多くの児童が並行読書のコーナーへ行き、本を借りていた。

2時間目に教師見本を一人一冊ずつ配った。モデルを具体的に示すことで、どんな

読みの力や学習が必要かを、児童は明確に見通すことができた。次時から学習する共通教材『まだらのひも』を、四つの翻訳テキストの中から一冊選択させた。児童は同じ作品なのに、様々な翻訳が存在することを知り



教師見本のもくじ

驚いていた。活字の小さい本に対し抵抗感がある児童には易しめの翻訳テキストを与えたところ、すぐに読み終え、次も読みたいと意欲的だった。多様な翻訳テキストを持つシャーロック・ホームズシリーズだからこそできる支援だと感じた。

(2)第2次 ミステリーを分析的に読み解釈し、「第1章 作品編」を作ろう(8時間)

1時間目は共通教材の人物描写と、教師見本の重要人物プロフィール・人物相関図を比較・分析したところ、ガイドブックに書く際には、「端的な言葉でまとめる・プロフィールは内容別に分類して書く・絵や



児童の作成した重要人物プロフィールと人物相関図

図などを入れてわかりやすくする」等の工夫に気付くことができ、全員が選んだ作品についての重要人物プロフィールや人物相関図をかくことができた。

2時間目はあらすじの書き方を学習した。まずミステリーの4部構成—事件の発端・事件の概要・探偵の推理・事件の真相—を意識し、各段落の文字数に軽重をつけたあらすじの教師見本を3パターン示し比較した。その後児童に好きなパターンを選択させ、全員が4段落構成を意識してあらすじを書くことができた。

3・4時間目は、動機や伏線・事件の手がかりについて読み取った。児童は、人物の描写や動機・様々な現場の手がかりを相互に関係付けることで、事件の真相につながる伏線を複数見つけることができた。始め伏線とは何かも知らなかった児童たちが、「伏線が何か考えながら読むと早く真相にたどり着ける」などと、ミステリーを読むコツに気付くことができた。

(3)第3次 シリーズ作品を読み評価する「第2章 ベスト3」や、シリーズの魅力を伝える「第3章 番外編」を書き、ガイドブックを完成させよう(8時間)

1時間目は、ベスト3作品を選ぶ観点をグループや全体で話し合い、自分の観点を決定した。個性的な登場人物や刺激的な結末に魅力を感じ、それらに関することを観点到に挙げる児童が多く、シリーズに対する愛着の気持ちが表れていた。

2時間目は教師見本の批評文を分析し、上位へ向かう段落構成や順位づけの理由や根拠、本文の引用に気づくことができた。また、批評文中に評価語彙が使われていることを知り、「自分たちも評価語彙集の言葉を使ってカッコいい文章を書いてみたい」という声が多く上がった。

3時間目に自分の選んだ観点について3作品を選び構成メモを書いたところ、順位

付けに悩む児童が多かった。そこで4時間目に同じ作品を読んでいる児童同士でグループを作り、互いの構成メモを読み合った。自分の悩んでいる点について互いに助言し合うことで、構成メモを修正することができた。批評文の清書の際には、ほとんどの児童が教師見本の構成や表現を真似ながら一人で書き進めることができた。

並行して「番外編」作りを行った。各々が「パスティーシュ紹介」「ホームズ名言集」等のテーマを設定し、生き生きと取り組んでいた。シリーズ作品を読むだけでなく、パスティーシュを読む、シャーロックアンの関連書籍で調べるといった読書の広がりが見られ、シリーズを取り巻く文化に主体的に参加する姿が見られた。最後にガイドブックの製本を行った。「あとがき」や「奥付」といった本の形式やきまりに触れ、本を作るという言語文化にも楽しみながら参加することができた。

#### (4)第4次 身に付いた学習の価値を振り返り、シリーズの魅力を広めよう（1時間）

まず「この学習を成功させるためのコツについて話し合おう。」と投げかけ、学習を振り返った。読解の視点では、⑤⑥⑦のような文学を読む力に加え、⑧⑨のようなミステリーならではの読みの力や、⑬のような作品を評価する力が高まったことがわかる。読書の視点では、②④⑥⑦のように、様々な翻訳テキストや関連図書への読書の広がりが見られた。

学習の最後には、あとがきにかえてホームズへファンレターを書きたいという児童が半数以上いた。「少しでも時間があればホームズを読むようになった」「自分もホームズのパスティーシュを作りたい」のように、読書にのめり込む姿や本を取り巻く言語文化に主体的に参加する姿が見られた。最後には学校図書館だけでなく地域の図書

館にもガイドブックを置いてホームズを広めたいという声が上ががり、図書館の協力を得て、実現することができた。

作品編を書くコツ	①内容を細かく読み取る ②想像して読む ③くり返し読む ④大事な所をメモしたり付箋を貼ったりして読む ⑤人物の特徴や登場人物を取る ⑥線を入れて人物関係を書く ⑦あらすじは、大事な所を落とさず短くまとめる ⑧線はぶつまの合がよい点で指して読む ⑨線の色を使って登場人物を表現する	ガイドブックを作るコツ	⑩伝えたいことをくわしくはっきりさせて書く ⑪読者が楽しめるように書く ⑫線の色を入れてわかりやすく書く ⑬人物の本のよう書く ⑭天地を空ける ⑮しきづけるような表組にする ⑯きれいにのり付けする ⑰学習を振り返ってあとがきを書く
ベスト3を書くコツ	⑱テーマに沿って本をたくさん読む ⑲気になる人物を指して読む ⑳作中のいろいろな場面を指して読む ㉑好きな場面をきりきりして書く ㉒読者がわかりやすく書く ㉓登場人物の言葉を使って文を書く	シャーロックアンのコツ	㉔本をたくさん読む ㉕ホームズの魅力を見つける ㉖違う視点で読む ㉗「スティーヴンズ」や「シャーロックアン」も読む ㉘ガイドブックをどんどん作る

学習の振り返り

### 3 成果と課題

#### (1)成果

①読書活動を基盤としたミステリーのガイドブック作りを通して、文学を読む上で必要な読みの力に加え、分析し解釈し評価するといった読みの力を身に付け、読解と読書を融合した読書力を高めることができた。よって、読書力を高める読書材としてミステリーは有効であった。

②シャーロック・ホームズを読書材にして読書活動を行うことで、シリーズの歴史的・文化的な価値に触れ、その体験をガイドブックに表現することで、シリーズを取り巻く言語文化に主体的に参加することができた。このことから、本を取り巻く言語文化に参加する児童を育てる上で、シャーロック・ホームズのシリーズ読書は有効であった。

#### (2)課題

他のミステリーシリーズも取り入れた読書活動を通して、読書力を高める単元づくりを継続して探究する。

## 中学校編

## 思考力・表現力を育む学習指導の在り方

～「一次関数」における既習事項と関連付けて学習していく活動を通して～

茂原市立南中学校教諭 なかだて 中館 たけまさ 武優

## 1 研究主題について

学習指導要領解説編では、「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る観点から、算数・数学の内容の系統性を重視しつつ、学年間や学校段階間で内容の一部を重複させて、発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程を編成できるように」と述べている。そこで、本研究では、生徒が苦手意識をもちやすい一次関数に焦点を当てる。新しい学習内容を指導する際に、関連する既習内容を再確認し、その内容を基にして発展させる活動を通して、より一層の理解を目指す学習指導の在り方を探っていきたいと考えた。思考するきっかけは問題解決の場が有効である。思考するためには、既習内容を基に発展・拡張させることが必要である。そのためには、常に既習内容から数学的な内容を想起し、それらをどのように解決したかを思い出すことが大切である。繰り返し学習とは、知識を定着させるためと思われがちであるが、思考力を育てる絶好の場面であると考え、本主題を設定した。

## 2 研究目標

一次関数の単元を学習する際に、既習の学習と本時の学習内容を関連付けることにより、基礎・基本の定着と思考力・表現力の育成を目指す学習指導の在り方を抽出生徒の変容から探る。

## 3 研究の実際

## (1)研究仮説

①身近にある素材を扱い、既習の「比例」

と比較・検討する場を取り入れた学習指導を行えば、補充的な学び直しをすることができ、基礎・基本の定着につながるであろう。

②既習内容や生徒自身が見つけ出した見方・考え方に振り返らせる学習指導を行えば、既習事項と関連付けてよりよいものを求めようと思いを高めることができるようになるであろう。

## (2)研究の具体的な内容

## ①「思考力」のとらえ方

思考を働かせるため、場面設定の大切さについて和田(1997)は「思考をはたらかせるためには、習慣的手段によっては解決し得ないような状況に置かれることが大切である」\*1と述べている。思考力をはたらかせるためには、次の2点が大切であると考えた。

- 一人一人が多様な考え方をを用いて問題を解決することが必要であるということ
- 集団において多様な考え方が出される必要があるということ

## ②「思考をはたらかせたか」のとらえ方

和田(1997)の文献をもとに、生徒が思考をはたらかせたかどうかを、本研究では、次の2点に注目した。

- ありきたりの方法以外の方法を工夫して問題を解決できたか
- 問題の解決の手段に変化が生じたかどうか

(3) 検証授業の内容及び抽出生徒の変容

① 指導計画ならびに授業実践の主な内容

時数	学習内容	(・) 手立てのねらい (○) 具体的な手立て
第1時	一次関数とグラフ 学び直しⅠ 《関数の意味と既習事項の確認》	・小学校で扱う関数の題材から、ともなう変わる2つの量を想起させることにより、表・式・グラフの学び直しの場とする。 ○ $x=0$ のときに $y=0$ にならない関数を取り上げ、比例と一次関数の共通点と相違点を明らかにする。
第3時	一次関数の値の変化 学び直しⅡ 《表から変化の様子を読み取ることの確認》	・ $y=2x+8$ のグラフを使い、2点間の変化の様子を矢印で階段状に示したことを想起させることにより、変化の割合を具体的に捉えやすくする。 ○ 警戒意識を醸成し、変化の割合の具体的なイメージをもたせる。
第6時	一次関数のグラフ 学び直しⅢ 《グラフや座標の確認》	・ 座標を結ぶ活動を通して、座標の意味や点を plot することの学び直しの場とする。 ○ 点を結んでカタツムリを作る(学校図書館1教科書)活動をさせ、座標についての理解を深める。
第9時	一次関数の式を求めること 学び直しⅣ 《式を求めることの確認》	・ 第8時までの既習内容を確認した上で、式からグラフをかく手順を想起させ、式を求めるポイントを考えるきっかけとする。 ○ 既習内容の定着を図るために、自分の考えを言葉で説明させ、理解を深める。
第15時	一次関数の利用① 《線香の燃焼実験》	・ ともなう変わる2つの量について調べる活動を取り入れ、自分の考えを分かりやすく伝えることをねらいとする。 ○ 線香の燃焼実験の結果から、帰納的に考え、単純化していくことにより、一次関数とみなすことよきに基づかせる。
第16時	一次関数の利用② 《携帯電話の料金プラン》	・ 2つの量の変化や対応の様子を、表やグラフ、式を使って比較する活動を通して、相手に分かりやすく伝えることをねらいとする。 ○ 携帯電話の料金プランの検討から、先のことを予測することができるという関数のよさを味わわせる。
第17時	一次関数の利用③ 《ダイヤグラム》	・ 一次関数として処理することよきを数学的活動を通して感じ取ることとをねらいとする。 ○ 2時間扱いの授業を通して、直線的な変化をする現象の例としてダイヤグラムを取り上げる。

資料1 検証授業の指導計画

(ア) 第1時《関数の意味と既習事項の確認》

$y = 2x + b$  を導く過程で一般化の考えの育成を目指す。

(イ) 第3時《表から変化の様子を読み取ることの確認》

変化の割合は常に一定になることを調べる活動を取り入れる。活動を通して一般化の考えと帰納的な考えの育成を目指す。

(ウ) 第15時《一次関数とみなすことよきを知る》

線香の燃焼実験を通して、2つの数量関係について調べる活動を取り入れる。自分の考えを分かりやすく伝え、多様な考え方を引き出すことを目指す。

第15時 学習プリント

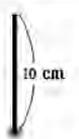
☆線香が燃える様子を、一次関数を使って考えよう。

今日の学習問題

線香に火をつけたとき、時間ともなう線香の長さがあるように変化するかを調べる実験を5分間行いました。次の表は、線香に火をつけてから  $x$  分後の線香の長さを  $y$  cm として、測定の結果をまとめたものです。

時間 (x 分)	0	1	2	3	4	5	6
線香の長さ (y cm)	10	9.4	9	8.6	8.3	8	

測定から得られたデータをもとに、線香が燃え尽きる時間を求めてみよう。



資料2 第15時 学習プリント(一部)

② 下位の生徒の変容 (資料3)

第1時では、 $x$  と  $y$  の対応表を作れず点のプロットもできなかった。そのために表の値の組と座標を一致させ、グラフを書くプロセスを確認させた。第15時では、データの値を点としてプロットし、その傾向から帰納的に考え、線香が燃え尽きる時間を

予想した。根拠を明らかにし自分の考えを書いたと思われる。

《問い》『直線と  $x$  軸と交わるところが燃え尽きる(問題把握)時間を表しているのではないだろうか?』

①(予想) データを直線とみて、 $x$  軸と交わる点を求めるとよいのでは?

②(計画) この線が伸びて  $x$  軸と交わったところが、燃え尽きる場合であるから、線ひきで少しだけ引き、延長してみる。

【帰納的な考え方】

(手立て) 定規で直線をひき、交点が  $(25, 0)$  になることを実際に確認させることが必要。この活動が式を作ることに繋がると考える。

③(実行)  $(24, 0)$  で交わりそうだから、24分で燃え尽きるだろう。

資料3 下位の生徒の様子(第15時)

(4) 検証授業における仮説の検証及び考察

① 仮説①についての検証

(ア) 実態調査の結果から

どの設問においても正答率は向上したが、比例の補充的な学び直しとしては不十分であることが明らかとなった。知識だけを学び直すのではなく、生徒が学び直した事柄を使って本時の学習につなげていけるような主体的な学び直しが必要である。

(イ) 抽出生徒の結果から

下位の生徒は、座標における点のプロットやグラフをかくことについて学び直しの成果が現れている。一方で、 $x$  と  $y$  の関係を式に表すことについての理解が不十分である。中位の生徒は、比例の学び直しが十分にでき、既習の学習を振り返る場を意図的に設けることは学び直しにたいへん有効であり、場を工夫することが重要であることが明らかとなった。

② 仮説②についての検証

(ア) 意識調査の結果から

関数のよさについての認識について(資料4)から分析する。本実践を通して関数が役に立つと感じた生徒が増加した。しかし(17)では、クラスによって対照的な結果となった。

比較・検討の場面で、多様な考え方が出たクラスがより肯定的な回答をしており、集団で多様な考え方が出されることが、学習への理解をより高めることにつながると思われる。

次に、既習事項に関連付けることの有効性について分析する。本実践では、意図的に既習の学習内容に関連付ける学習指導を行ったことにより、(6)では2クラスとも肯定的な回答が事前に比べ若干ではあるが増加した。授業の最初に、前回の学習内容を振り返った。そのことが、本時の問題を自力解決するためのヒントや類推して考えるきっかけとなったと思われる。また、既習内容にヒントを得ることが有効であったかについては、(18)で肯定的な回答の割合はあまり変らなかった。振り返った既習内容が、生徒が学習を進めていく際の基礎・基本となり、実際に活用できるような工夫が必要である。

(11) 関数の学習は将来役に立つと思うか				
調査	肯定(1又は2と回答)		否定(3又は4と回答)	
	クラスA	クラスB	クラスA	クラスB
事前	48.6	45.7	48.6	51.4
事後	57.1	60.0	37.1	33.3
(16) 関数で学習したことを活用すると、身のまわりのことからの様子を簡潔に表現できると思うか				
事前	27.0	42.9	70.3	54.3
事後	42.9	56.7	51.4	36.7
(17) 関数で学習したことを活用すると、未知のことがらを予測したり、推測したりできると思うか				
事前	32.4	42.9	64.9	54.3
事後	71.4	43.3	22.9	50.0
(6) 分からない問題を解くときに、以前学習した内容にヒントがないかと振り返ることがあったか				
事前	67.6	71.4	29.7	25.7
事後	74.3	73.3	20.0	20.0
(18) 分からない問題があったら、今まで習ったことを参考にすると解くことができると思うか				
事前	62.1	71.4	35.1	25.7
事後	62.9	70.0	31.4	23.3

資料4 意識調査の結果から

※ クラスA…事前n=37,事後n=35 クラスB…事前n=35,事後n=30 単位(%)

(イ) 下位の抽出生徒Aの変容から

生徒Aは当初は座標を読み取れず、座標を点としてプロットすることが正確にできないため、自信をもってグラフをかくことができないという課題が見られた。そのため、座標の読み取りと点のプロットを継続して個別

支援を行った。第9時で傾きと切片の用語の理解はでき、机間指導の際の一問一答形式のやりとりでグラフをかく手順を説明できるようになっている。第14時までは補充的な学び直しをメインとし、常に既習内容を振り返らせながら、既習内容の定着を目指した。その結果、第15時では与えられた点をプロットし、そのデータをもとに帰納的に考えることができ(資料5)、第16時ではグラフから携帯電話のプランの特徴を読み取り、自分の言葉で説明することができている(資料6)。点のプロットからグラフまで自力で解決できるようになり、学習問題にも進んで取り組めるようになった。

本実践を通して、生徒Aは座標のつまづきを解消することにより、学習への理解をより高めることができ、主体的に課題に取り組むことができたと考えられる。

24分にもえつきると思います。なぜかという、線ひきでちよくせんですこしだけひいたら24分だったからです。

資料5 第15時 下位生徒の様子

1か月に30分以下はなすのであれば、Cプランがおとくとなっております。1か月に100分以下はなすのであれば、Bプランがおとくとなっております。1か月に100分以上はなすのであれば、Aプラン。

資料6 第16時 下位生徒の様子

4 研究のまとめ(成果・課題)

(1) 成果

意図的に既習の学習内容に関連付けることが、補充的な学び直しにつながり、考えることを苦手とする生徒でも筋道を立てて考えようとする姿が見られた。

(2) 課題

知識だけを学び直すのではなく、生徒自身が学び直した事柄を使って本時の学習につなげていけるような学び直しが必要である。

[引用] \*1 和田義信「著作・講演集(2)考えることの教育」, 東洋館出版, 1997年

## Ⅱ 特別支援学校編 Ⅱ

# 高等学校段階における インクルーシブ教育システム構築に向けて

～学校間における交流及び共同学習を通して～

県立印旛特別支援学校教諭 あかま たつき  
赤間 樹



### 1 研究主題について

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（文部科学省,2012）では、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ時間である交流及び共同学習の推進や学校間連携の推進が求められている。

交流及び共同学習は、学習指導要領においてその意義が示され、障害のある子どもにとって有意義であるばかりではなく、小・中学校等の子どもたちにとっても、障害のある子どもとその教育に対する正しい理解と認識を深めるための機会として必要とされている。学校間の交流及び共同学習（以下、学校間交流）について文献や書籍等を調べていくと、特別支援学校高等部と高等学校の学校間交流の実践例が少ないことが分かった。

本研究では、インクルーシブ教育システム構築の観点から、県内の特別支援学校高等部と高等学校の学校間交流の現状と課題を調査した。その中で学校間連携を計画的・組織的に取り組む方法を探り、高等学校段階の生徒が共に学び合える場の構築を目的として、本主題を設定した。

### 2 研究目標

- (1) 県内特別支援学校高等部と高等学校の学校間交流の現状及び課題を明らかにする。
- (2) 特別支援学校高等部分校と高等学校の交流及び共同学習から、計画的・継続的に実施できる活動や連携体制の検討、生徒や教

師の意識の変容について明らかにする。

### 3 研究の具体的内容

#### (1) 調査研究

- ① 目的 特別支援学校高等部と高等学校の学校間における交流及び共同学習の現状と課題を明らかにする
- ② 内容 選択・記述併用の質問紙法（回収率 100%）
- ③ 対象 (ア)～(ウ)の交流及び共同学習の担当者または実施状況を把握している者

(ア) 県内特別支援学校高等部、高等部分校及び分教室 36校

(イ) 高等部分校及び分教室が設置されている高等学校 4校

(ウ) 上記(ア)の交流相手校である高等学校 20校

#### ④ 結果と考察

③の(ア)への質問「高等学校との学校間交流の実施の有無」では、実施校と未実施校は約半数であった。実施している活動は様々な形で取り組まれており、特に学校行事や特別活動で多く実施されていた。年間計画の中でも日程が決まっている学校行事であれば来校しやすいことが要因として考えられる。通常授業での取組では、各教科や作業学習等が挙げられた。

実施校とその交流相手校である③の(ウ)への質問「活動内容や生徒への効果について」では、「10年以上取り組んでいる」等の回答がある一方で、「目標やねらいがあ

いまい」「生徒に交流の意義を伝えにくい」等の記述もあり、同じ場を共有しているだけになりかねない懸念もみられた。

(2)実践研究

①目的 教科の授業で交流及び共同学習を実施し、生徒や教師の意識を調査する。

②内容 アンケートによる生徒や教師の意識調査、ビデオによる生徒同士の関わり方の分析。

③対象 X分校の全学年48名、Y高校の選択科目体育（以下、選択体育）受講の3年生34名

④実施までの経緯

調査研究を踏まえ、教科の授業での交流及び共同学習を計画した。題材の候補としてパラリンピック正式種目であるボッチャを挙げ、保健体育、総合的な学習の時間、LHR等から両校で調整を図った。高等学校の教育課程の中でも授業内容を柔軟に対応できる選択科目が候補に挙がり、選択体育で実施することとなった。

⑤題材設定の理由

ボッチャは、重度身体障害者の競技スポーツへの参加を可能にするためにヨーロッパで考案されたスポーツで、東京パラリンピックでも実施される。両校の生徒にとっては、全員が未経験の種目である。どちらかの生徒が教える、教えられるという関係ではなく、お互いが初めて取り組み、共に学び合える理由から、ボッチャを設定した。

⑥単元の計画

(7) 合同で取り組む授業を「共同授業」と呼び、教師、生徒間で共通理解を図った。事前学習を各校で取り組んだ後、合計3回の共同授業を計画し、リーグ戦に取り組んだ。

(1) チーム編成は、共同授業1回目からX分校とY高校の生徒で混合チームを編成すると、不安や緊張等の負担が大きいのではな

いかと考え、1回目は同一校チーム、2・3回目を混合チームとした。

(ウ) 自己紹介ツールとして名刺を作成し、混合チーム編成時に交換することにした。

⑦結果（授業実践）

(7) 名刺交換

氏名、好きなスポーツ・歌手等の共通項目を設け、生徒自身で作成した。名刺交換後は共通の話題を話し合ったり、好きな映画名をチーム名にしたりするなどの成果があった。授業後には名刺裏にメッセージを書いて返すようにし、「〇〇さんのおかげです」等の記入があった（写真1、図1）。



写真1 名刺交換  
左から2番目：X分校生徒、右端：Y高校生徒

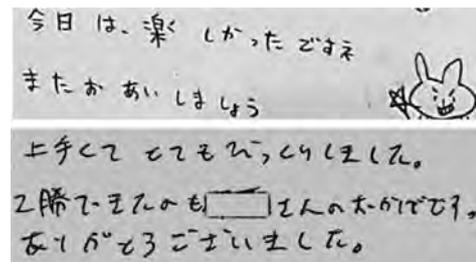


図1 名刺裏へ記入したメッセージ  
上：X分校生徒からY高校生徒へ  
下：Y高校生徒からX分校生徒へ

(1) 共同授業前後の生徒の意識

事前学習後に事前アンケート、3回目の共同授業後に事後アンケートを実施した。

a 「一緒に授業を行うこと（行ったこと）について」（図2、図3）

事前アンケートでは、Y高校生徒は全員が「楽しみ」と答えていたのに対し、X分校生徒は約4分の1が「楽しみでない」と

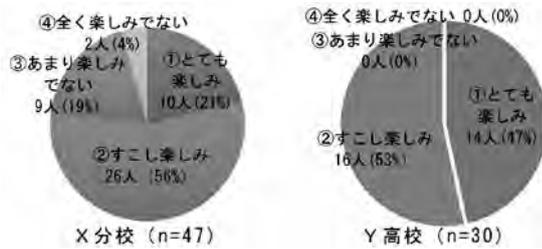


図2 事前アンケート「一緒に授業を行うことについて」(選択回答)

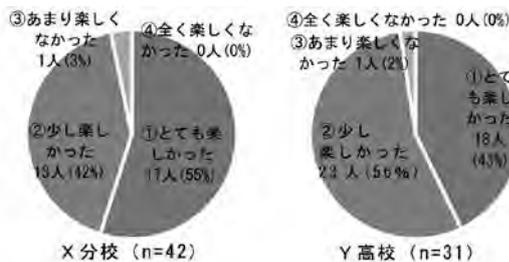


図3 事後アンケート「一緒に授業を行ったことについて」(選択回答)

回答した。事後アンケートでは、両校ともにほぼ全員が「楽しかった」と回答した。  
b 「相手校生徒や学校に対する印象」について (図4, 図5)

自由記述で求め、回答内容を肯定的記述、否定的記述、どちらともいえないに分けて集計した。X分校の事前アンケートでは、肯定的21、否定的17と両面の記述があったが、事後アンケートでは、肯定的41、否定的0と肯定的記述が約2倍に増加した。

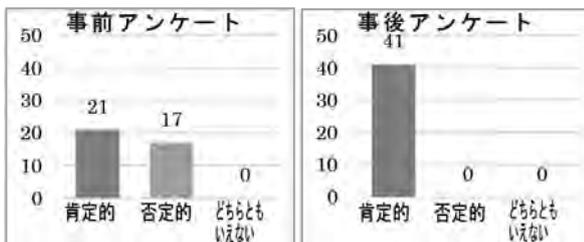


図4 X分校「相手校生徒の印象」の比較

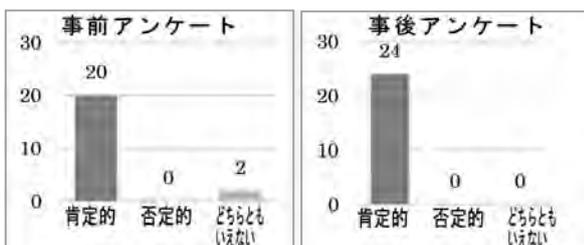


図5 Y高校「相手校生徒の印象」の比較

Y高校の事前と事後アンケートでは、肯定的記述は微増であったが、記述内容に変化があり「優しい」「コミュニケーションが取れた」「同じ高校生なので変わらない」等の記述があった。

### ⑧考察

実践研究では、ボッチャで授業モデルを示した。連続した授業での計画は、学校行事よりも日程調整や授業内容の検討に時間は要するものの、双方の生徒に適した授業展開を図ることができ、生徒にとって授業内容が分かり、活動に参加している実感・達成感をもちやすくなるといえる。双方の生徒が目標に向けて自然な形で関わり合うことができ、共に協力したり喜び合ったりする活動が生徒の相互理解につながると考えられる。生徒へのアンケート結果からも、肯定的な意識変容が示され、相互理解に成果が得られることが明らかになった。また、活動の工夫として、名刺等のツールを使用することや、各校2名以上でグループを組むこと等、生徒の心理面の配慮を行うことが有効であることが示唆された。

## 4 成果と課題

教科の授業での交流及び共同学習は、生徒や教師にとって授業の目標や活動内容を共有しやすく、関わり合いながら取り組める活動であり、生徒の相互理解や優しさや認め合う心などの人間性や社会性の高まりに成果が得られることが分かった。

課題として、学校行事等での学校間交流においても、ねらいや目標を明確にし、生徒同士が関わり合える活動を計画する必要がある。社会の出口である高等学校段階であるからこそ、お互いの人間性や社会性を高める交流及び共同学習の充実が必要であり、学校全体での積極的な取組が必要である。

校外学習における博物館の活用 ～『房総のむら』における学習支援事業～

県立房総のむら学芸員 よしだ 吉田 あゆみ 歩未

「千葉県立房総のむら」は、参加体験型の博物館として昭和61年(1986)4月に開館した。その後「房総風土記の丘」との統合や指定管理者制度の導入を経て、今日に至っている。約51haにおよぶ広大な敷地には、再現された房総の商家・武家屋敷・農家のほか資料館、移築された民家、龍角寺古墳群等がある。自然に恵まれた環境の中で、衣・食・住・技の移り変わりを、年間460種類以上の展示・体験・実演等を通して、子どもから大人まで学べる画期的な博物館である。

当館では年間約400校の学校の校外学習を受入れており、千葉県内では主に小学校3年生の社会科の単元「昔の暮らし」の学習、6年生の同じく社会科の単元「縄文のむらから古墳のくにへ」での学習を目的に多くの利用がある。ここでは房総のむらで実施している博物館ならではの学習支援事業について紹介したい。

1 団体体験

職員による解説や実演の後に製作体験を行うものである。社会科で習う「昔の暮らし」や「わたしたちの県の伝統工芸」などに関連したプログラムとなっており、房州うちわ作りや太巻き寿司作りなど千葉県伝統の体験も実施している。

2 ワークシート学習

商家・農家・竪穴住居・101号古墳などをテーマとした問題集となっている『房総のむら探検ノート』を配布している。グループ活動の際に活用する学校が非常に多い。また、『社会科見学見どころ集』として、教員向けに房総のむら及び周辺施設の案内書も併せて配布しており、新たな校外学習の場を探す資料として活用されている。

3 昔のくらしの説明

職員による昔のくらしや生活用具・農具などの解説を行うもので、実際に農家にある道具などに触れながら、当時の人々のくらしを学習することができる。

4 ボランティアガイド

ガイドを希望する施設や内容を事前に確認した上で行うもので、学年や学習目的にあったガイドができるように努めている。



商家町並みでのガイド風景

以上学習支援事業について紹介したが、このほかにも教職員向けの博物館活用研修会の実施や中学生・高校生の職場体験、大学生のインターンシップ・博物館実習、教員の研修の受入れなども年間を通して行っている。

当館を校外学習の場として利用していただく際には、学習目的やねらいを明確にした上で、事前の下見をお願いしている。こうすることで、目的にあったプログラムの提案ができ、校外学習を効果的に行うことができる。

問い合わせ 房総のむら 電話 0476-95-3333  
URL : <http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>

## 企画展「メタルアートの巨人 津田 信夫」

津田 信夫  
つだ し の ぶ  
 県立美術館主任上席研究員

中松 れい  
なかまつ

千葉県立美術館では、平成28年10月25日（火）から平成29年1月15日（日）の会期で、企画展「メタルアートの巨人津田信夫」を開催します。

津田信夫は、明治8年(1875)に佐倉に生まれた千葉県出身の工芸家です。工芸は、木を使う木工、土を使う陶芸など、使用する材料により様々な技法があります。津田は金属を使う「金工」の中の、「鑄金（ちゅうきん）」と呼ばれる技法で、たくさんの優れた作品を残しました。

日比谷公園にある鶴の噴水を、御存じの方も多いのではないのでしょうか。季節のニュースなどで、「今日は寒さで鶴の噴水の水が凍りました」などと紹介されることがあります。実はこの噴水は、津田が手がけたものです。日本橋の橋上に飾られた、麒麟（きりん）や獅子の像などの鑄造事業も、津田が担当しました。

### ■鑄金とは

鑄金は、高熱で溶けた金属を、あらかじめ用意した型に流し込み、冷えてから取り出して仕上げる技法です。歴史は古く、日本では弥生時代の銅剣類まで遡ることができます。奈良の大仏などの仏像や、身近なものでは、お寺の梵鐘、お湯を沸かす鉄瓶などが鑄金の技法で作られています。

### ■工芸作家として

特に動物置物で優れた作品を残しました。それまでは動物の毛筋一本まで克明に表現したものや、眼や爪など細部の表現に優れた作品が評価されていましたが、津田はそうした緻密な装飾よりも、動物の形態、骨格、気配のようなものを表現することに注力しました。



写真 北辺夜猫子

写真は《北辺夜猫子》（ほくへんやびょうし）という作品です。北辺とは、北のあたり、北のはて、という意味で、夜猫子とは、中国語でフクロウの事です。この作品では、フクロウの体に羽根模様のような毛の様子を示す装飾を施していません。そのかわり、形態を注意深く観察して表現しています。全体を微妙なふくらみを持つ曲面で構成しており、目や口元などは、限られた線で表現しています。そうでありながら、写実的で「リアル」です。装飾よりも、形態への関心と動物の写実的表現が、津田の作品を特徴付けています。

### ■展覧会について

今回の展覧会では、全体を初期、中期、後期の3つの時代に分け、各時代に制作された津田の工芸作品と、各時代に交流した工芸家たちの作品、さらに、各時代に担当した依頼制作を紹介するパネルにより、メタルアートの巨人、津田信夫の業績を紹介します。

千葉県立美術館 千葉市中央区中央港 1-10-1  
 電話：043-242-8311

URL：<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

## 教員のための博物館の日 2016

～楽しみながら、活かそう！学びの宝庫「中央博物館」～

県立中央博物館教育普及課 主任上席研究員 やすかわ ゆうき  
安川 裕樹

博物館には、学校の授業に役立つ学習資源がたくさんあります。教員の皆さんにもっと博物館を身近に感じてもらえるように、そして、博物館の学習資源を具体的に知ってもらうことを目的として以下のようなイベントを開催しました。子どもたちに学ぶ楽しさや喜びを味わってもらうために、まず教員の皆さんに博物館を楽しんでいただきたいと考えたためです。

### 1 「知って得する博物館」(6/15 実施)

当日は、人類の進化について理解を促す学習貸出キットや生命の歴史、地球の歴史を理解するために重要な化石の学習貸出キット、昆虫標本作製のために必要な道具や中学1年生用国語教科書に掲載されているヘルマン・ヘッセ作「少年の日の思い出」の授業に使用する学習貸出キットの紹介を行いました。



グループで活発に意見交換

### 2 「博物館でアクティブ・ラーニング！」(7/26 実施)

学校でも社会教育の場でも、持続可能な開発のための教育（持続発展教育、ESD）に対する注目が高まっています。学習指導要領でも重視されるアクティブ・ラーニングの手法を使って、ESDとはどんな活動なのか具体的な事例をもとに考えていただきました。

### 3 「博物館利用研修会」(8/1 実施)

中央博物館の展示室や生態園について理解を深めていただき、その活用方法を具体的に検討してもらう機会としました。「展示と児童生徒をつなぐ学習支援活動」をテーマに国立科学博物館のスクールプログラムとも連携して、骨格標本を活用した取組を実際に体験してもらいました。



スクールプログラムを体験

研究機能もある中央博物館には、多くの専門家がいます。また、実物や教材になる標本もあります。利用することで学習活動を充実させることができるとともに、大きな教育効果も期待することができます。



展示資料の活用を検討

これらのイベントをきっかけに、一人でも多くの教員の皆さんが中央博物館とつながっていただけることを望んでいます。そして、必要に応じて中央博物館と教員の皆さんが子どもたちのために連携、協力しながら質の高い学びをつくりあげることができるようにしていきたいと思っています。

平成28年度 千葉県総合教育センター・千葉県子どもと親のサポートセンター  
研究発表会ご案内！！

## 未来をひらく千葉の子どもたちのために

～社会の変化に対応できる資質・能力の育成をめざして～

日時 平成29年2月24日(金) 9:00～16:30  
(全体会 受付9:00～9:25)

会場 千葉県総合教育センター

全体講演 9:40～11:10

「志高く未来を創り出していくための  
資質・能力を育む」  
国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
基礎研究部 総括研究官 西野 真由美 氏

研究発表 11:20～12:00 13:00～16:20

研修事業充実のための調査研究  
～「千葉県教職員研修体系」に基づく  
「教職ライフステージ研修」を中心に～  
【カリキュラム開発部 研究開発担当】

全国学力・学習状況調査について  
～千葉の子どもたちの学力向上に向けて～  
【学力調査部】

校内研修活性化に向けた手法の研究  
～参加・体験型校内研修の  
ガイドブックづくりを通して～  
【カリキュラム開発部 研究開発担当】

カウンセリングの考え方を活かして築く  
保護者との信頼関係  
～事例から考える具体的なアプローチ～  
【子どもと親のサポートセンター 教育相談部】

特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ  
の開発<中間報告>

【特別支援教育部】

生活を豊かにするためのSNS利用に関する  
指導法の研究

【カリキュラム開発部 メディア教育担当】

科学的思考力を高める指導方法と評価の  
在り方<中間報告>

【カリキュラム開発部 科学技術教育担当】

「主体的・対話的で深い学び」を実現するた  
めのカリキュラムについての研究<中間報告>

【カリキュラム開発部 研究開発担当】

各研究発表の詳しい内容や時程等につきましては、別紙案内チラシ  
および千葉県総合教育センターWebサイトにて御確認ください。

## 特別支援学級担当者の専門性向上パッケージの開発

～質問紙調査の調査結果から～

県総合教育センター特別支援教育部

### 1 はじめに

現在、小・中学校に在籍する児童生徒が減少する中、特別支援学級に在籍する児童生徒数は増加の一途にあります。特に、自閉症・情緒障害特別支援学級の在籍児童生徒数は、平成20年度に比べて約2倍増(464人)となっています。一方、特別支援学級担任の経験年数は、3年以下が全体の4割を超えている現状に加えて、経験豊かな特別支援学級担任の退職が続く中、特別支援学級担任の専門性の維持・向上が大きな課題となっています。このことから解決方策の一つとして「特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ」を開発することとし、昨年度、専門性向上パッケージの内容検討を目的に、特別支援学級担任を対象とした質問紙調査を実施しました。

### 2 質問紙調査の概要

- (1)調査対象：県内小・中学校の知的障害及び自閉症・情緒障害特別支援学級で担任をする全ての教員(千葉市を除く)1,734人
- (2)調査期間：平成27年7月～8月末日
- (3)調査方法：質問紙調査(郵送による)
- (4)調査結果：回収率：94%
- (5)主な調査結果
  - ①指導・支援上の困り感や課題として挙げられた項目の中で最も多かったのが「教科・領域の指導」、以下順に「障害特性の理解と対応」「教育課程の編成」「交流及び共同学習の計画・実施」でした。中学校は、小学校に比べ「二次的な症状への対応」の割合が高く、進路指導の課題が更に加わります。
  - ②「教科・領域の指導」では、児童生徒や学級の実態が多様化するなか、「何を、

どこまで、どのように指導・支援すべきか」等の具体的な学習内容や方法がわからないなどの回答が多いとともに、個人差が大きいことへの対応や個別課題の準備に十分に時間をかけられずにいます。

③交流及び共同学習の推進により、通常の学級との時間調整や急な日課変更への対応などで苦慮していることが多く挙げられました。また、在籍する児童生徒が全員そろって授業できる時間が少なくなり、特別支援学級ならではの授業展開がしづらくなっている現状もあります。

④校内での特別支援学級に対する理解と支援体制の充実が求められています。

### 3 まとめ

担任経験年数により質的な困り感や課題に違いはあるものの、日々の教育実践に苦慮している担任が多いと言えます。通常の学級での経験が長くても、障害のある子どもを前にすると、それまでの経験を特別支援教育に生かせずにいることが教科指導の状況や指導形態から推察されます。このことから、特別支援学級担任に必要な支援として①担任経験年数の浅い教員の実践をサポートするデータベースや校内の支援体制の充実②情報の共有化(ネットワーク)と研修等の充実が求められていることが明らかになり、専門性向上パッケージの開発が急務であると言えます。

※詳しい本調査の結果は、千葉県総合教育センターホームページ内の「特別支援教育部」で閲覧できます。

<https://db.ice.or.jp/nc/>

※文中の「困り感」の用語は、学研の登録商標です。

## 学習状況調査の結果分析を活用し、指導改善に役立てましょう！

県総合教育センター学力調査部

平成 28 年度の全国学力・学習状況調査は、4 月 19 日（火）、対象学年の児童生徒に実施されました。今年度は国語、算数・数学の教科に関する調査と、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査です。国語、算数・数学については、「知識」に関する A 問題と、「活用」に関する B 問題でした。質問紙調査は、児童生徒に対して行うものと学校に対して行うものがあり、2 方向から児童生徒の生活習慣や学習環境を調査するものです。

### 1 検証改善サイクルの確立を目指して

本調査の結果を見たときに「正答率や正答数」だけにとらわれてしまいがちですが、本調査の目的は次の 3 点です。

- ①「実態把握及び分析」を行うことで「成果と課題を検証」する。
- ②それらを踏まえて「継続的な検証改善サイクルを確立」する。
- ③それらに基づいて「教育指導、学習状況の充実や改善を図る。」

これらの目的から、本調査の結果を踏まえた学力向上に向けた改善の取組が大切です。



各学校が調査結果を指導改善（PDCA）サイクルに乗せて活用していく場合、

県として独自に考えた「指導改善サイクル」（左下参照）を提案しています。具体的に説明すると、調査実施後は、校内で調査問題を十分に吟味してその趣旨や内容を捉えます。調査結果の出る 8 月から 9 月は、県の分析ツールを活用して分析し、各学校の実態に応じた指導改善方法を具体化していきます。そして、次回の調査でその成果を検証するという流れです。

### 2 全国調査の結果を活用していますか？

ぜひ、総合教育センターの分析ツールを活用してください。

総合教育センターの Web ページからダウンロードし、簡単な操作で以下の 3 つの分析シートを作成することができます。分析ツールは、以下のとおりです。

#### (1)教科・質問紙分析シート

レーダーチャートに全国、千葉、各学校の教科の結果を表示、分析することができます。

#### (2)誤答分析シート

各教科一問一答の誤答分析ができるだけでなく、全体を 4 つの層に分け、どの層がどういう誤答をしているか細かく分析できる。

#### (3)クロス集計シート

生活習慣や学習習慣と学力との関係を知ることができる。

自校での分析作業を軽減するために、分析シートを簡単に作成できるようにしました。

全国学力・学習状況調査は、今年で実施 10 年目になります。過去から現在までのデータを活用し、より詳細な自校の傾向を把握することも可能です。先生方全員で分析ツールを活用し、指導改善に役立ててください。

## 次期学習指導要領は「学びの地図」

教育創造研究センター所長 たかしな 高階 れいじ 玲治

## 1 次期学習指導要領改訂の基本方針

中教審は次期学習指導要領改訂の論議を進めてきたが、8月26日にこれまでの『審議のまとめ』を公表した。今回の改訂は従来にない新たなチャレンジがある。

その背景には、グローバル化の進展やAI（人工知能）の進化など、未来予測が困難な社会の到来に向けて子ども個々にどのような「力」を身に付けるかという難しい課題が存在するからである。次期改訂の基本は新しい時代に求められる資質・能力の育成として「社会に開かれた教育課程」を構想している。

それは従来のように「何を学ぶか」を強調するのみでなく、学んだことが生活や社会の中で生きて働くように「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」を子どもに身に付けることである。

その重要な視点について『審議のまとめ』は、「生きる力」の3つの柱として位置付けている。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

この3つの柱は、各教科等全てにおいてどのように考えられるかが明示されている。現時点では各教科等の具体的な内容までは示されていないが、基本の考えとして3つの柱があり、今後それに基づく目標、内容、方法、評価等が示される。

また、『審議のまとめ』では、新しい学

習指導要領を子どもたちや教職員のみでなく、広く国民に伝えたいとして「学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる『学びの地図』としての役割を果たせるようにすることを目指す。」としている。

## 2 学習指導要領の構造はどう変わるか

将来に向けた子ども個々の「力」の形成に及ぼす学校教育の役割は大きいですが、次期改訂において英語科が導入される小学校で授業時数は増加するが、中・高校は変わらない。そこで重要になるのが、限られた授業時間で学ぶ学習内容・方法の質・量の問題である。

アクティブ・ラーニングが強調されているが、それは授業時間消費型であって、効果的で効率的なカリキュラム・マネジメントが必須の課題である。

そこで次期教育課程は、「学んで得た力」が他の学習に転化できる汎用性を持つ学習が強調されている。単に各教科等の学習内容を指導すればよいのではなく、教科等を超えて教育課程全体を通じて育成される資質・能力が重要である。『審議のまとめ』は次の事項を示していることに注目したい。

一つは全ての学習の基盤になる言語能力、情報活用能力（プログラミング的思考、ICT）、問題発見・活用能力、他者と協働する力、などである。二つは、現代的課題への対応としての健康・安全や食育、主権

者意識、多様性の尊重などである。

このことは学校の教育課程が教科等ごとの配列で終わるのではなく、教科横断的な視点で学びを深めることが必要になることを意味している。そこで『審議のまとめ』は、カリキュラム・マネジメントについて次の3つの視点が重要としている。

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

つまり、各学校のカリキュラム・マネジメントが極めて重要になってくると言える。

また、アクティブ・ラーニングについても「深い学び」に至るプロセスを「主体的・対話的で深い学び」の文言で統一している。その意味は、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付けることを通して、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けることへの期待である。

ただ、『審議のまとめ』の段階では、学級活動に「キャリア教育」が導入されることは確かであるが、各教科等の学習内容は具体的に示されていない。「学習内容の削減は行わない」と断定されていることから、今後の改訂作業が注目される。

### 3 今後の改訂スケジュールと学校の対応

中教審によれば、次期改訂のスケジュールは、12月までに『答申』を発表し、3月

末までには学習指導要領を改訂したいとしている。今回のスケジュールで従来と異なるのは29年度中は「周知・徹底」とされていて、幼稚園は30年度に全面実施であるが、小・中学校は「先行実施」となる。小学校の全面実施は32年度、中学校は33年度である。その間、小学校は30年度に教科書検定、31年度に教科書採択・供給となる。中学校は1年ずれる。

従来よりもやや余裕がありそうであるが、何よりも次期学習指導要領について周知・徹底が必要と考える中教審の意向が強いと感じる。それを受けて各学校はどう対応すべきであろうか。

まず何よりも次期教育課程をめぐる多様な課題や内容についての情報収集と校内の共通認識が必要である。次期教育課程は新しく導入される教育内容が多く、そのレベルは複雑で困難度が高いと考える教員が増えている。新しい教育の理解・受容が何よりも重要であってそのための校内の体制を整えたい。

次に課題となるのが学校で編成する教育課程である。先に述べたように新たな視点による教育課程編成に向けたカリキュラム・マネジメントであるが、従来の調査を見ても学校の対応はかなり難しい。多忙化、不慣れ、共通認識の欠如など、学校の課題は多い。

ただ、今回登場したアクティブ・ラーニングについては積極的に実践化しようとする学校が多くなっている。また、教科を超えた協働の体制づくりを進める学校も増加している。全ての学習の基礎となる言語能力やICTの活用、体験活動や他者との協働、メタ認知の育成などは、今からでもチャレンジしたい学習活動である。「学習する教員組織」を構築し、学校力、教師力を高めることが今後の必須の課題である。

## 目標設定と手立ての改善・話し合い活動を通して、 道徳性の向上を図るため生徒指導主事として取り組んだこと

浦安市立入船中学校教諭

はなわ  
塙

ひろし  
洋



### 1 はじめに

本校は、平成23年度に19学級の浦安市内最大規模の学校であったが、平成26年度に高洲中学校との分離を経て、現在は7学級の学校となっている。この数年で、様々な変化があったが、入船中はあいさつがしっかりできる、明るく前向きな学校であると考えている。生徒たちが、目標に向かって、より努力できるようになった一つの転機が、平成23年度から本格的に考え始めた、学校教育全体で道徳性の向上を図るという取組である。生徒指導主事として取り組んだことを以下に紹介する。

### 2 道徳性の発達段階を示した、道徳教育

#### (1) 学校や学級における貢献

コールバーグ, L. の示す道徳性の発達段階に基づき、学校や学級に対する貢献の度合いを道徳的な発達段階と照らし合わせて分かりやすく、生徒に示し、集団に貢献する大切さを理解することで生徒の意欲や自己肯定感を高める取組を実践している。道徳性の発達段階のモデルは以下のとおりである。

#### 前慣習的レベル

##### 第1段階 罰と服従志向

自分一人称で、自分のことしか考えない。

##### 第2段階 道具主義的相対主義志向

相手二人称で、相手一人のために役に立つことができる。

#### 慣習的レベル

第3段階 グループ三人称で、小集団に貢献することができる。

第4段階 集合体を考えることができ、集団(学級全体)に貢献することができる。

#### 脱慣習的レベル

第5段階 集合体を考えることができ、集団(学校全体)に貢献することができる。

第6段階 原理に基づく見方ができ、当たり前だと思っている規範をそれでいいのか見直し、話し合いを通じた合意形成をすることができ、学校全体や地域に貢献することができる。

以上のモデルを基に、3段階、4段階の

生徒が増えてほしいという願いを教師が日々伝え、生徒の生活の意識の中心に「貢献」というキーワードが根付き、集団のために力を発揮し、自己肯定感を高められるように努めた。

#### (2) 部活動における貢献

コールバーグ, L. の示す道徳性の発達段階に基づき、部活動においても、集団に貢献する大切さを理解することで勝利のみにこだわるのではなく、負けてしまってもチームに貢献できたという自信や自己肯定感を高める取組を実践している。道徳性の発達段階のモデルは以下のとおりである。

第1段階 自分のことしかしない

第2段階 ペアのために役に立てる

第3段階 グループのために貢献できる

第4段階 チームのために貢献できる

第5段階 部活動での取り組みを通して学校全体に貢献できる

第6段階 部活動での取り組みを通してチーム全体に貢献できる

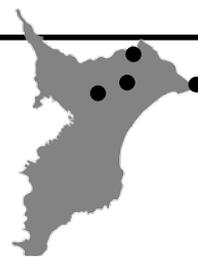
以上のモデルを基に、中学校の教員全体で共通認識を持ち、部活動の運営をしている。チームの活動目標や活動目的を設定し、部員がそれに向けて、それぞれ貢献する経験を通して、部員の自己肯定感を高める取組をした。

### 3 最後に

私は、生徒たちが前向きに目標に向かって努力できる場所を安定して提供することが学校の一番大切な仕事の一つだと考えている。「～しない」や「～してはだめ」、「～のせいでできない」、「～が悪い」などのマイナス面に、生徒が目を向けていてはこのような学校の実現は難しい。目標に向かって努力し、集団に貢献することで自己肯定感を高めていくことが、生徒たちが安心して、自分の力を発揮できる学校づくりにつながると信じ、これからも生徒の道徳性向上のため取り組んでいきたい。

# 千葉歴史の散歩道

## 日本遺産「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」



千葉県教育庁教育振興部文化財課・指定文化財班長

しまだて かつら  
島立 桂

平成28年4月、千葉県ではじめて「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が日本遺産に認定された。そこで、認定された「ストーリー」と各市で見られる構成文化財の一端について紹介したい。

江戸時代、北総地域は、利根川の水運と街道が整備されたことで、隣接する百万都市江戸にとって重要な役割をはたした。例えば、利根川は東北・北関東からの物資や銚子港で水揚げされた魚介類の運搬ルートとして機能し、佐倉・成田街道は江戸と北総とを結ぶ幹線路として、人々の往来が絶えなかった。こうして、江戸のくらしや経済を支える一方、江戸の文化がもたらされたことで、北総には城下町佐倉、門前町成田、商家の町佐原、漁港・港町の銚子という4つの特色ある都市が発達した。

この四都市には、江戸時代の庶民が息づいていた町並みや風景が残り、今も東京近郊にありながら江戸情緒を体感することができる。

それでは、四都市で体感できる「江戸」には、どのようなものがあるだろうか。

JR佐倉駅から北西に1.5kmほどの高台に国立歴史民俗博物館の建つ佐倉城跡があり、本

丸跡や堀、土塁が残る。そこから東へ向かうと武家屋敷群、旧佐倉順天堂などが点在する。また、県立佐倉高等学校には堀田家の資料「鹿山文庫」が保管されており、武家の生活や洋学を学んだ者の足跡がしのばれる。

成田山新勝寺には、初詣や節分などで多くの参拝客が訪れ、往時から続く成田参詣は今なお喧噪のなかにある。新勝寺の伽藍とともに、門前町の参道に軒を連ねる店舗も昔ながらの面影を残している。

佐原には、利根川へ続く小野川の兩岸に商家の町並みが見られる。小舟がひしめく小野川と活気あふれるありし日の商人の姿に思いを巡らせ、伊能忠敬の歩測をまねて、生家の前に架かる橋を渡るのも、佐原ならではの楽しみではないだろうか。

銚子電鉄外川駅から徒歩数分で漁港を望む急な南斜面に着く。ここは、江戸時代、紀州の崎山治郎右衛門にはじまる外川の町並みである。碁盤の目のような区画の中で、家々が静かなたたずまいを見せている。

是非、北総四都市を訪ね、江戸の情緒を感じていただきたい。



城下町佐倉（武家屋敷）



門前町成田（新勝寺参道）



商家の町佐原（小野川流域）



漁港・港町の銚子（外川）

千葉教育 梅 (No.641) 平成28年11月30日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 安藤久彦  
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL043-276-1204  
URL <http://www.ice.or.jp/nc>

印刷所 株式会社白樺写真工芸  
〒263-0002 千葉市稲毛区山王町102-5 TEL043-423-1101

**次号予告**

**『千葉教育』 菜 (No.642)**

◆シリーズ 現代の教育事情  
豊かな学びを支える集団づくり

○早稲田大学教育・総合科学学術院 河村 茂雄  
上越教育大学教職大学院 赤坂 真二  
県子どもと親のサポートセンター 教育相談部  
白井市教育委員会

○提言 イオンモール幕張新都心ゼネラルマネージャー 小野 大輔

**平成28年度  
シリーズ 現代の教育事情**

蓮 638号	政治的教養を育むために ～学校での取組を考える～
萩 639号	学校の防災教育 ～子どもの命を守るために～
菊 640号	学校における合理的配慮と基礎的環境整備とは
梅 641号	オリンピック・パラリンピック教育 ～2020年に向けて～
菜 642号	豊かな学びを支える集団づくり
桜 643号	これから求められる学力をどう育むべきか ～次期学習指導要領を読み解く～

「千葉教育」は千葉県総合教育センターのwebサイトで御覧いただけます。

表紙写真について  
佐倉市立小竹小学校  
スクールガードに見守られる中、登校する児童の様子